

平成 24 年度文化庁委託事業「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
地域日本語教育実践プログラム (A)

浜松版日本語コミュニケーション能力評価システム策定事業報告書

平成 25 年 3 月

公益財団法人浜松国際交流協会(HICE)

目次

- ・はじめに

- ・浜松版日本語コミュニケーション能力評価システム策定計画
 - 1. 日本語学習支援者のための日本語コミュニケーション能力評価システム策定研修
 - 2. 評価システム策定ワーキンググループの結成

- ・浜松版日本語コミュニケーション能力評価システム開発の経緯
 - ・ワーキンググループ①（主婦・主夫向け）
 - ・ワーキンググループ②（就労者・求職者向け）
 - ・ワーキンググループ感想

- ・浜松版日本語コミュニケーション能力評価システムの考え方
 - ・目的
 - ・目標
 - ・評価者
 - ・評価システムの観点
 - ・今後の課題

- ・浜松版日本語コミュニケーション能力テスト
 - テストの構成
 - ・読み書きテスト
 - ①ひらがな・カタカナ
 - ②安全標識語彙
 - ・インタビュー
 - ロールカード
 - 判定基準表
 - 評価シート
 - ・タスクテスト
 - ①指示理解
 - ②検査
 - ・結果シート

- ・名簿
- ・参考文献
- ・付録（インタビューサンプル）

はじめに

浜松市は、1990 年の入管法改正以来、南米系日系人を中心に外国人が定住する街として、外国人集住都市会議の設立を初めとした数多くの多文化共生に資する先進的な取組を進めてきました。2010 年 1 月には、子どもから大人までの総合的な学習支援を充実するための拠点施設である浜松市外国人学習支援センターが開設され、日本語教室、ボランティア養成講座、多文化体験講座、支援者のためのポルトガル語講座、日本語学習支援団体ネットワーク事業が行われています。

公益財団法人浜松国際交流協会では、センターが開設されて以来、浜松市より委託を受け事業運営を行っております。全国先駆けの外国人の学習支援に特化した「地域学校型」の施設として、地域住民やボランティアの方々など様々な関係機関と連携を深めながら外国人市民への学習環境整備に努めてきました。

センターの中心事業は、外国人を対象とした日本語教室の開催ですが、それまで行っていた地域日本語教室の 4 倍強の教室数を開催しつつ、質を確保するためには、日本語ボランティアの人材育成は急務な課題でした。そこで、平成 23 年度は文化庁委託事業「PDCA 型日本語教室づくりのための日本語ボランティア研修」を行い、先輩日本語ボランティアが後輩日本語ボランティアを育成しながら教室活動が発展していくよう、活動内容の質やボランティア自身の技術の向上を図る実践的な研修を行いました。

研修を行いながらボランティアの方々と協働で日本語教室を運営していく中で、さらに新たな課題がうまれてきました。それは、日本語教室の成果をどう見える化していくかということでした。

センターの日本語教室・会話クラスに通う学習者が一体どれくらい日本語コミュニケーション能力が向上したのか、目の前にいる学習者の日本語コミュニケーション能力を評価し、学習者の目標に沿ったレベルまで引き上げ社会参加に結びつけるにはどうすれば良いのか、そのような話題が、教室後の振り返りミーティングで、研修を受けた教師やボランティアの方々から自然と聞かれるようになりました。

ほぼ同時期に、センターの外から見た評価というものも求められるようになってきました。センターが公的施設という特徴を持つ限り、地域住民の方々に対してや施設運営協議会等で一定の成果を報告していく必要があるのですが、何を持って成果として報告したら良いのかがなかなか定まらない状態でした。

一方、学習者からの日本語能力試験対策クラスに対する問合せも、センター開設以来減ることはありませんでした。これは日本での就労やステップアップを目指す外国人に対し企業等から日本語能力の証明を求められるケースが多く、そのため日本語能力試験の合格を目指す学習者が増えているということの表れであると考えられます。しかし、浜松で多く見られる日本在住歴の長い生活者としての外国人の特徴的な日本語能力は、既存の日本語能力試験だけでは測りきれない部分が多いだろうというのも私たち支援者側の共通認識でした。

このように日本語能力評価へのニーズが高まる中、くしくも文化庁から『生活者としての外国人』に対する日本語教育における日本語能力評価について」が公表されました。冊子には、『生活者としての外国人』に対する標準的なカリキュラム案」を参考とし地域に沿った取り組みへと検討工夫することが重要とありました。そこで、当協会では平成 24 年度文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業の委託を受け、浜松に住む生活者としての外国人に多い属性「主婦・主夫」層と「就労者・求職者」層には、どのような評価基準だったら彼らの学習動機を喚起しエンパワメントにつながるのか、また目に見える評価をもとに日本語学習支援の周知や理解を地域へどう広げていくか等を検討し、日本人・外国人の互いの歩み寄りの道具として活用するための評価基準を策定する事業を行うことになりました。

本報告書では、浜松版日本語コミュニケーション能力評価システム策定事業で開発された浜松版日本語コミュニケーション能力テストのほか、開発の経緯や今後の課題についてまとめられています。開発においては何の知識も経験もない文字通りゼロからのスタートでしたが、こうしてなんとか形を作ることが出来たのは、運営委員会委員の皆様、ワーキンググループメンバーの皆様、研修でご指導くださった講師の皆様ならびに全ての関係者の皆様のおかげだと心より感謝しております。

本報告書が、それぞれの地域で日本語学習支援者の方々の活動の一助となり、そこで活用された評価結果が外国人学習者にとって有益な道具となることを願ってやみません。

平成 25 年 3 月
公益財団法人浜松国際交流協会

浜松版日本語コミュニケーション能力評価システム策定計画

1. 日本語学習支援者のための日本語コミュニケーション能力評価システム策定研修

浜松版日本語コミュニケーション能力評価システムの策定にあたり、まずは、既に開発されている様々な評価基準やシステムを学ぶことから始めた。この研修では、中国帰国者定着促進センターで開発されたコミュニケーション水準及び判定テストや、RHQ 支援センターで活用されている RHQ 評価基準表、OPI について学んだほか、企業で求められる日本語コミュニケーション能力や多文化社会型居場所感尺度についてもふれ、様々な角度から日本語コミュニケーション能力について考える機会とした。

研修内容：

回数	取組のテーマ	授業概要	講師	参加者数
1・2	RHQ 支援センターでの日本語評価基準を学ぶ	大和定住促進センターや国際救援センター、RHQ 支援センターで 30 年余に渡り行われてきた難民への日本語教育プログラムを学び、日本語評価基準策定に活かす	内藤 真知子氏 (公益社団法人国際日本語普及協会専務理事)	13 人
3.4	中国帰国者定着促進センターでの日本語評価基準を学ぶ	中国帰国者定着促進センターで開発された中国帰国者コミュニケーション水準及び判定テストの内容、活用方法等、具体例を交えて学ぶ	小川 珠子氏 (中国帰国者定着促進センター教務部教務第 2 係長)	11 人
5.6	企業内日本語教室からコミュニケーション能力を考える	企業内日本語教室活動から、働く上でのコミュニケーションに必要な能力とは何かを考える	山屋 宏氏 (県立浜松城北工業高校・企業派遣講師) 柳澤 好昭氏 (明海大学教授)	13 人
7.8	企業における人事考課から能力判定を考える	企業における職務遂行能力と日本語能力について、その開発の経緯や活用方法について学ぶ	柳澤 好昭氏 (明海大学教授)	13 人

9.10	OPI の見地から日本語能力判定を考える	浜松市外国人学習支援センターにおいて、学習者の口頭能力を判定するにあたり参考にしている OPI。OPI の見地から日本語能力判定を考える	嶋田 和子氏 (一般社団法人アクラス日本語教育研究所代表理事)	15 人
11.12	多文化社会型居場所感尺度から能力判定を考える	多文化社会型居場所感尺度の結果を踏まえながら、日本語教室の在り方や、能力評価の活用方法について学ぶ	石塚 昌保氏 (四谷ゆいクリニック臨床心理士)	15 人
13.14	実践研修	「生活者としての外国人」に対する日本語教育における日本語能力評価についての活用方法を考える	嶋田 和子氏 (一般社団法人アクラス日本語教育研究所代表理事)	7 人
15.16	実践研修	浜松版日本語コミュニケーション能力評価の基準について	柳澤 好昭氏 (明海大学教授)	9 人
17.18	実践研修	浜松版日本語コミュニケーション能力評価基準の具体化について	嶋田 和子氏 (一般社団法人アクラス日本語教育研究所代表理事)	7 人
19	実践研修	浜松版日本語コミュニケーション能力評価基準の教室活動への活用について	嶋田 和子氏 (一般社団法人アクラス日本語教育研究所代表理事)	11 人

対象： 2 年以上の日本語教室活動支援者

工夫：

講座研修後には、講義の概要と内容及び感想をまとめたレポートを提出してもらい、それらをまとめたものを受講者間のメーリングリストで共有した。同じ日本語教師という立場に立っていても、一つの評価基準に対し多様な考え方や感想があることを実感する機会とした。

受講生の感想（原文ママ）

第 1.2 回「RHQ 支援センターにおける日本語能力評価基準を考える」

有効だと思う点：

- ・学習者に寄り添い教室で展開される学びの活動に沿った評価基準。
- ・評価をグラフで可視化でき、わかりやすい。
- ・地域の教室でも、「主婦」と「研修生」などの属性の違いや、母語の違い、年齢の違いなどで、違いの大きい学習者が同じクラスにいと、時として非常に指導が難しいと感じるが、個々のペースに沿った評価方法となる。
- ・被評価者を傷つけにくい方法であるため、教室活動の改善や学習内容や学習方法のふりかえりには有効だと感じた。
- ・会話だけでなく文字・作文等の書く技能も含まれており総合的な学習とその評価が必要であることを再確認できた。
- ・学習者自らが自分を自己評価することを「学習活動としての自己評価」ととらえ、実践しているところが、より学習者の自律学習を進めるうえで大きな役割を果たしている。

課題だと思う点：

- ・学習者と支援者にとってはよいが、一般社会から見た時、評価の信頼性に問題があると思う。
- ・中間カウンセリングの設定等、きめ細かい評価はともすれば現場の負担が増える。

第 3.4 回「中国帰国者コミュニケーション水準及び判定テストから評価基準を考える」

有効だと思う点：

- ・「コミュニケーション」の考え方が帰国者と日本人側が‘協働’して談話を作り上げる（助け舟を出すことも OK）というのが印象的。
- ・来日初期の「予備的集中教育」、その後「中長期的な支援へ」と大きく 2 段階あるところがいいと感じた。
- ・「コミュニケーション力とは、世間話のようなコミュニケーション自体が目的となる会話場面を想定」というのが印象に残った。評価テストが能力判定よりも能力レベルを双方で認識するツールとし、テストを判定者ではなく会話を協働して作る支援的態度で接する——新しいアプローチと見える。
- ・水準を Can-do statement で仕切っているがコミュニケーションは聞いて分かるだけでも半分は成立している。それを評価するのに相手の理解支援レベルを評価項目に組み入れている発想はユニーク。
- ・常に学習者主体のインタビュー形式。テストの方法も、言語によるくずしや時間配分な

ど、自由度が高いところが実際の会話を想定していると感じた。また、そのような点が言語形式によらずに「コミュニケーション力」を判定することを表していると思った。

- ・普通の会話をするようにテストに臨めるため、受験者への負担をある程度抑えることができる。
- ・センターの実際の面接の映像や模擬体験を通して、この方式の方がお互いにわからないことを理解しようと働きかけをしながら行われる実際の会話により近いのではないか。

課題だと思う点：

- ・能力水準を 5 段階に分けてあるが、これが浜松版の「評価」にそのまま使えるとは考えにくい。
- ・模擬面接を体験して、テストの役割の大きさを認識するとともに、テストにより判定が大きくぶれる可能性があると思った。
- ・テスト・判定者の養成・訓練が必須と感じた。
- ・日本人のとらえ方が協働者というとらえ方だが、日本語教師ではなく一般の人であるようにしなければならない。
- ・アティーブメントでの能力測定には向かないため、日本語教室の学習項目の確認の方法を別途考える必要がある。

第 5.6 回「企業内日本語教室から、働くうえでのコミュニケーション力を考える」

- ・企業が求める日本語と日本語教師が求めているものとのあまりものギャップに、驚いたのが正直な感想だ。
- ・職場コミュニケーション活性化の一つとして、日本語力が必要であるのであって、コミュニケーションさえとれば、ブロークンであっても一向に構わないという山屋氏の言葉には、日本語教師の一端に席を置く者としてはショックであった。しかし、企業側の考えとしては、当然であると納得できた。
- ・浜松版企業の評価は日本語とコミュニケーションと業務遂行の 3 つの観点で評価するのはどうだろうか。
- ・企業が求める日本語講師の役割が日本語の指導そのものより、ファシリテーターとしての役割だということが新鮮な驚きであった。ともすれば日本語講師は日本語力の向上のみに視点がいきがちであるが、社会で求められているものは何か、情報収集し、働きかけてくことが重要だと思った。企業との連携も視野にいれていくことの必要性。日本語教室そのものの役割と教師のなすべきことについて新たな発見があった。
- ・会社が必要とする能力だけではなく、社会人として自立できる日本語力・コミュニケーション力を上げるためには、総合的な評価が求められると思う。
- ・企業外で彼らが遭遇するさまざまな場面は（例えば、近所とのトラブル、役所での手続

き、子供の通う学校とのやりとり)最低限のコミュニケーションが成立すればいいかといえ、必ずしもそうではない。間違った文法や、聞き手に誤解を招く表現しかできなかったとしたら、その学習者は確実に損をする。社会的地位が高かろうが、低かろうが、必ず話した相手の日本人からは「日本語もまともに話せない外国人」とマイナス評価をうける。したがって「コミュニケーションさえ成立すれば、文法は必要ない」という言説に私は反対だ。

- ・何をもって「学習者のための日本語教育」と呼ぶのかは、教える教師によって異なると思うが、常に学習者の立場に立って何がベストなのかを考えるようにしたい。一つ注意したいのは企業が求める日本語能力はあくまで、その企業にとって都合のいい日本語能力だということだ。

- ・就業以外の場面で外国人が日本人とコミュニケーションをとらなければならない際に、常に必要最低限で本当にいいのかは疑問である。必要最低限＝もっとも低いレベルと言い換えると常にあらゆる局面で最低ラインしかクリアできないことになるが、それは果たして個人の幸せとつながるのだろうか。

- ・企業人としての見方考え方を理解しなければ、日本語教師が企業内日本語教育に携わるのは難しいだろう。立場の違いが認識の違いを生むのだとしたら、それを受容したうえで、学習者にとってよりよい日本語教育を考え、生み出すのが我々日本語教師の役割なのではないだろうか。

- ・外国人従業員も会社を一步出れば生活者としての日常がある。一市民として安心安全な暮らしを営むためにも基本的な言語保障の機会が必要だ。この部分を担うのはやはり地域の日本語ボランティア(教師)であろう。

- ・日本語能力試験は受からないレベルだが、職場では「意思疎通が充分できる」という点が驚きだったが、考えてみれば職場に限らず、主婦同士の世間話でも同じことが言える。いわゆる「非公式の場」では、そのようなやりとりでコミュニケーションが成立するのかもしれない。「会話能力(口頭能力)＝コミュニケーション能力」と思いがちだが、そうではなく、コミュニケーション能力には様々な要素が絡んでくることがよくわかった。心的距離が近くない相手ともコミュニケーションを上手に取れる必要があることを忘れてはいけないと思う。

- ・コミュニケーションに絡む様々な要素に基準を設けることは非常に難しい。日本語教師以外の知見も必要なのではないかと思った。

- ・企業側が求めている日本語能力と教師側が実際に教室等で実施し、力をつけて行きたいと思っている事柄との違いがある。

第 7.8 回「企業における職務遂行能力と日本語能力」

- ・できる (Can-do) は評価の基準として多用されてきたが、教育する/学習する/できるの従

来基本方針に疑問を呈する趣旨には大いに賛同する。

- ・評価の目的によって評価の判断が全く違うものになることがわかった。目的を定めることが大切である。
- ・本当にたくさんある評価から私たちに必要なものを探し出すという課題の難しさを認識した。
- ・人の能力をどのように評価するかということについて考えさせられた。単に日本語力だけではなく、人が社会人として日本で生きていく生活力の総合的評価が求められると思う。
- ・複数の評価法を組み合わせるのも考えられるかもしれない。
- ・何を評価の主軸に置くのか、評価理念が必要だと感じる。
- ・ただ単に「日本語のコミュニケーション能力がある・ない」という評価ではなくて、当事者にプラスに働くものになってほしいと願っている。
- ・評価における「清く、ただしく、慈悲深く」の慈悲深くがポイントだ。我々は、大学の入試関係者でも企業の採用担当者でもない。したがって、学習者同士の優劣をつけるために評価するのではなく、学習者個人の能力を評価し、それをエンパワメントに結びつけなければならない。
- ・何をもってソーシャルスキルが高い、低いと判断するのかといった基礎的な知識を身に付けて、その上で評価基準を考えなければならないことを実感した。
- ・今後の課題として、どのように対象者を決めるかを話し合っていきたい。
- ・画一教育の中での測定と評価には限界がある。
- ・一つの試験で総合評価を行うのは難しい。さまざまな観点がある。どこに重きをおくかにより、評価が変わる。
- ・日本語力だけでなく、実際に起こりうるあらゆる状況への対応力が培われることが重要である。よって言語力のための単純な評価は無意味であり、評価のベースをどこにおくかが問われる。
- ・学習者は日本語教育で取り上げている感謝の言葉と挨拶だけでなく、慰め／励まし／労り／褒め言葉が言えるようにならなくてはいけない。逆に我々日本人が、感謝と挨拶が言えるようになることも必要なのでは。
- ・1つの試験だけでは評価は難しい。
- ・どの分野においても共通した「評価」も存在すると思う。それは今後の活動により見つけていきたいと思う。

第 9.10 回「OPI の見地から日本語能力を考える」

- ・判定において、第一印象は加味しないなど、概して陥りやすいことを排除する必要性を特に学んだ。学習者自身が客観的に自分の日本語力を知り、教師と共有する必要があるのではないかと初めて思い至った。それまで評価と言えば、教師が教師のために行う一方向し

か想定していなかったのだった。

- ・フィードバックシートとフォローアップインタビューの存在。このことがまさに学習者にとって OPI のメリットであると思う

- ・OPI のエッセンスがこれから策定されるであろう評価システムに活用できる可能性を感じる。ただし、既存の評価法をクリティカルに見ること、盲信しないことが大切であることも教えていただいた。

- ・「5W1H で評価すること」何を大事にするかを念頭におくことが大切だとわかった。

- ・OPI を学習者にフィードバックをすることの大切さ、自律的な学習に結びつけた活用例が印象的であった。

- ・浜松の「評価」を考える上で、「誰のため」「なぜ評価するのか」という大事なことを忘れてはならないということを再認識した。

- ・OPI は、2つの点で効果があると思う。

①外部に向けて口頭能力という視点での評価を示すことができる②学習者が自分の能力を知ること、そしてフィードバックという作業を行なうことで学習者自身に気づきが生まれ、さらに学習に対するやる気生まれる。という点だ。

- ・浜松版の評価システムに OPI をとりいれるのなら、課題としては、テストの養成をどのようにしていくかになるだろう。費用と時間、また技量を高めるための研修機関を設ける必要があることが考えられる。

- ・質の高いテスト養成がネックになると思う。

- ・評価と授業（カリキュラム）は違う。

- ・OPI をした後の教師側の働きかけがとても大事。学習者のレベルチェックをしてもらうことがあるが、それは学習者のためでなく、教師のためだったのではないかと反省する。

- ・OPI の特徴的なものを踏まえながら、何をどのように考察するのか、軸ずれせずに、私情を挟まず、学習者・評価者、両者にとって利益になるような評価やフィードバック、慣れ親しんだ量的評価基準から質的評価基準に変換する。

- ・インタビュアーに求められる技量レベルが高く、それがシステムの普及/定着のネックになるのでは。

- ・最大の問題は口頭言語の中にも反映されている社会・文化的要素（一例 日本語が表現し得る「らしさ」）をいかに評価できるか。

- ・場面設定ができるロールプレイに取り込んで評価できる手法が確立されると日本語ローカルニーズに素晴らしくマッチするのではないだろうか。

- ・地域事情にあった最も実行性と実効性のあるツールを採用すればよいだろう。

- ・重要なのは OPI の結果をどう活かすかである。

- ・OPI では測れない能力もある。非言語コミュニケーションや文化的能力の有無がそれである。生活者にとってはそれらの能力も欠かすことのできない重要な要素だ。

- ・評価が他者からの判断材料として使用されるほかに、評価をうけた側が自らのレベルを

知るための機会になっている。

- ・一人の人間としての学習者と向き合い、よりその姿勢が指導するうえでも、評価をする上でも重要である。

- ・今まで見てきたどの方法より、汎用性や測れる内容の多様性（総合性）を感じた。しかし、テストの養成をどうするかという大きな問題やテスト、被験者両者の時間的負担などの問題がある。

- ・OPI が地域日本語支援においてどのように活用され、どのような効果をもたらしているか、興味深い。

- ・日本語の支援は学習者の生活、学習者の人生に深くかかわっているものであり、ただ日本語が話せるようになるように支援すればいいというわけではない、その重みを最近実感する。

- ・テストの技術力がないと、正しく判定ができない。

- ・実用性に欠けることや、非言語や文化的な能力を評価の対象とはされていない。

- ・日本語教師に必要なことは情報編集能力であることや、学習者の人生にかかわるということが印象深かった。

第 11.12 回「多文化社会型居場所感尺度の見地から日本語能力を考える」

- ・第 1 回から 3 回までの研修と異なり、心理面からその場でどのような居場所感を感じているかを測る手段として興味を持った。このような視点は私達がいつも忘れずに持ち続けなければならないものである。ここで居場所感を持てるよう考えるだけでなく、社会での居場所感がえられるよう、橋渡しの存在になれるよう努力したいと思った。

- ・「居場所感」という感覚的なものを測定するのに、言葉による質問を設定していった作業（？）はとても難しく大変だったのではないかと考えた。（専門家だからできたこと。）「つながってもいいし、つながらなくてもいい。つながりたいときに、つながれる」ような社会の仕組み。一方的だったり押し付けにならない、この考え方が非常に大事だと感じた。

- ・「評価ではない」という認識を持っていたとしても、評価に見えてしまうというのが正直な感想。しかし、これを活かして、自分達の活動を考察し、より良くしていくことは、今後ずっと必要になるのではないかと。

- ・日本に住む外国人にとっての居場所また地域の日本語教室で日本語を教える教師にとっても居場所だという話が印象深かった。また「外国人が困っていることはなにか」というワークの中で、確かに学習支援や生活支援は必要だけれども、外国人に普段あまりかかわることのない一般の人の意識や外国人に対しての認識を変えていくことの必要性・日本人と外国人双方が歩み寄り、交流を通じてお互いを理解しあえる社会の実現が不可欠ではないかという結論に達した。外国人と一般の日本人の橋渡し役として、日本語教師にできることがあるのではないかと。

- ・異文化での苦労を多少なりとも体験したことがある支援者でも、異文化適応の違いを認識しているとはかぎらない。再葛藤期には単なる日本語学習支援等だけでなく、心のケアがより重要な意味を持つということを学んだ。
- ・日本に生活して長く生活している人達の心の葛藤を垣間見ることがある。そんな時に必要なのは彼らにとっての居場所であり、地域の支援なのかもしれないと感じた。今までの講義を含め、そんな外国人と一番接する機会が多いのは日本語教師かもしれない。そのことを踏まえて、今後の活動を続けていけたらと思っている。
- ・どこでも弱者にしわ寄せがいく社会はもう十分だと思っている。
- ・評価とは異なる「居場所」という視点や観点で、日本語教室をとらえた興味深い研修であった。
- ・非常に興味深く、新たな観点から日本語教室を客観的に見ることは新鮮だと感じた。ただ出てきた数値に捉われ過ぎると偏った考えや活動になる可能性があるので注意すべきだと感じた。
- ・尺度を使用する利点についての説明を聞き、さらに具体例を知ることにより尺度を使用する意義が見えてきた。やはり判定に関する具体的な例やマニュアルが必要だと感じた。
- ・尺度を使うことで、その場の状況や活動の内容を確認するための道具になるということだったが、具体的イメージが湧いてこず、今一つ理解できていない。
- ・尺度の信頼性と妥当性が大きな課題だと感じた。
- ・日本語教師のひとりとして地域の教室で外国人生活者と関わる時、何がカリキュラムに必要なか、何に心を寄せるべきかを再確認した。
- ・言語保障にしても居場所の創出にしても、選択できることが必須条件だと思った。言語保障は①日本語の学習だけを推奨するのではなく、②母語であらゆることを情報収集できる環境も必要。居場所は石塚先生のお話から、つながりたいときにつながれるしくみ。〇〇したくない人に押し付けない。別の意味で日本語教師根性を捨てること。
- ・社会意識の変革という角度よりも、まず、日本人の個人の意識変革、更に、お互いの関係性を密に保ちながら、彼らの被害者意識を取り除いてあげられればお互いがウィン・ウィンの関係に立てるのではないのだろうか。
- ・日本語教室（U・ToC）は日本語学習支援と言う第1義的な目的で良いのか、彼らにとって良い居場所と成りうるか？——難しいテーマ！
- ・今日のテーマそのものではないが、日本社会/地域社会が対応すべき、外国人を受け入れる社会の諸制度の合理的改革が遅れているならばそれは社会が問われる問題であり、当該社会（地域あるいは日本）の責任ではないが放置すればその社会にマイナス影響が出かねない諸問題とは2元的に考える必要があるだろう。ややもすると身近な問題から掛け声を掛けて個人の草の根運動に精力的に展開される事が多いが、前者の様な諸制度の改革も推し進める市民意識（オンブズマンの視線とでも表現できるだろうか）も大切だろう。
- ・支援者として、時に評価者として、彼らとどのように向き合いどのように関わることが

必要か。ともすると言語能力のみに比重を置きがちな日常ではあるが、彼らのおかれている状況（環境）に思いを寄せ、互いを尊重しつつ歩み寄る姿勢が大切だと再認識した。今後、学習者と共に活動する際に有効な新しいものさしを教えていただいたことに深く感謝する。

効果：

◎様々な評価基準を学ぶことで、受講生自身のこれまでの活動内容や日本語教室の在り方そのものに考えが発展した。

外国人への支援の在り方として、言語保障の観点からの日本語教育を重視する日本語教師らと、日本語教室は多文化共生社会づくりへの一つの方法であると捉える事務局とでは、当初少なからずの温度差があった。しかし、研修の回を重ねるにつれ、受講生の中で原点回帰「日本語教室の役割は一体何なのか。何のために日本語を教えているのか。」が始まったと感じた。ゴールとされる評価基準策定を考えることが実はスタートラインにつながっていた。その気持ちの変容が感想からも読み取ることができ、研修の効果を感じた。

また、最終回の研修で、私から見た外国人が困っていることというグループワークを行った際に、日本人側の理解が必要であるという回答が多く寄せられた。日本人社会と生活者としての外国人を引き寄せあうことこそ日本語教師の役割だと考えているので、今後の活動に期待がもてると感じた。

◎地域日本語教室活動者らが一緒に研修を受ける事により、それぞれの活動内容を知り、意見交換の場となったことで、連携が広がった。

地域の日本語教育を支えている者同士、お互いの情報交換や課題の共有は必要と考えるが、これまではなかなかその機会がなかった。本研修はその「場」としても機能した。

課題：

浜松版日本語コミュニケーション能力評価システム策定事業において、まずは評価と測定、評価基準について学ぶ必要があると考え、知識を導入するという研修を行ったことは成功したと思う。しかし、その後ワーキンググループを立ち上げ、議論を繰り返しながら講師に実践研修をお願いする予定だったが、評価基準の開発やシステム策定が初めてだったので、手がかりも手順もわからず最初は雲をつかむような状態だった。そのため、ワーキンググループを軌道に乗せるのに非常に時間がかかった。実践研修を行う場合は、方向性が固まる位までは、もっと頻回に講師に指導を仰げるよう体制を整えるべきだった。

2. 評価システム策定ワーキンググループの結成

浜松版日本語コミュニケーション能力評価システム策定にあたって、研修を受けた日本語教師の中から 8 名の方にワーキンググループのメンバーとして一緒に評価基準を作ってもらいたいと依頼した。

ワーキンググループでは、浜松在住の生活者としての外国人の 2 大属性「主婦・主夫」と「就労者・求職者」のそれぞれの属性を対象とした評価基準を策定しようと計画した。そのため、「主婦・主夫」向けのワーキンググループ①には、浜松市外国人学習支援センターの会話クラスでプログラムコーディネーターを務める日本語教師に依頼した。浜松市外国人学習支援センターで平日昼間に開催している日本語教室には、主婦や主夫の学習者が多く在籍しているからだ。

また、「就労者・求職者」向けワーキンググループ②には、厚生労働省の日系人就労準備研修や企業内で日本語指導をしている日本語教師、元企業社長のほか、職場で外国人技能実習生へ技術や日本語を指導している方にも依頼した。様々な立場で外国人労働者と接する経験が活かされると考えたからである。

そのほか、短期間での事業となるため、グループは小回りが利く人数とした。これは、メンバーがそれぞれ支援の場や活動状況が異なるため本事業だけに専従できる状況ではなく、従事してもらいたくともそれを依頼するだけの予算が足りなかったこと、あまり人数が多いとスケジュール調整が実質的に困難であることが理由である。

ワーキンググループメンバー ※所属は平成 24 年 7 月時点

ワーキンググループ①（主婦・主夫向けグループ）

リーダー：松葉 優子（浜松学院大学 非常勤講師）

メンバー：石川 智子（With U-Net¹ プログラムコーディネーター）

メンバー：針山 摂子（静岡文化芸術大学 臨時日本語講師）

メンバー：水野 佳子（With U-Net プログラムコーディネーター）

ワーキンググループ②（就労者・求職者向けグループ）

リーダー：松本 三知代（財団法人日本国際協力センター 日本語講師）

メンバー：白井 えり子（With U-Net 代表）

メンバー：村島 理恵（にほんご NPO）

メンバー：森本 元祥（With U-Net）

¹ With U-Net は、浜松市外国人学習支援センターで活動する HICE 日本語ボランティア有志の会の通称。
（公財）浜松国際交流協会（HICE）は、浜松市外国人学習支援センターの日本語教室を With U-Net と協働で運営している。

浜松版日本語コミュニケーション能力評価システム開発の経緯

特に大切にしたのは、評価の目的の共有である。日本語コミュニケーション能力評価を策定するという目的は共通だが、研修において様々な思いで開発された評価基準を学び、またその思いの数だけ手法が異なることも知り、何のために、誰のために、どのような形式の評価基準にするのか（したいのか）というのを、初回はもとより、議論が煮詰まるたびに何度も確認した。

ワーキンググループ①も②も、議論の糸口として、まずは文化庁から出された能力評価についての内容を検討することから始めた。日本語学習ポートフォリオの活用方法を検討したところ、下記の点があげられた。

- ・ 浜松市外国人学習支援センター日本語教室・会話クラスでは、1対多数の学校型で開催している。支援者に対し学習者の人数が多く、一人ひとりにポートフォリオを活用するには時間がかかる。また、チェック項目数が多いことも負担が大きい。
- ・ ほとんど日本語が話せない学習者が仕事が見つかったという理由で教室に来なくなることや、なんとなく通じてしまっている学習者が現状に満足し日本語教室を去ることは、地域における日本語教室において日常茶飯なことである。生活が第一優先で日本語学習は二の次の学習者にとって、ポートフォリオだけでは効果的な日本語学習プログラムを検討し組み立てるための手立てとはなりにくいのではないか。
- ・ 客観的な評価をしない（見せない）ということは、もしかしたら学習者を現状のライフステージに、支援者からは無意識に、本人たちにとっては無自覚に、置き去りにしていることにもつながるのではないか。

こうした議論を重ねる中で、評価基準の方向性は、より積極的に学習者の日本語学習意欲に介入できる方法へと傾いていった。

【ワーキンググループ①（主婦・主夫層向け）】

評価の目的確認

測るものは話す・聞くに絞る

社会に通じる・見えるものさし

評価の方法

クラス内での学習者の様子を観察

レベルをどのように表現していくのか

インタビューを試してみる

形式を考える

レベル分け、内容

レベル表を作成

インタビューをレベル表にあてはめ、項目を検討する

【議論の争点】

読み書き能力の評価策定

地域の日本語教室に通う外国人学習者の中には、話す・聞く能力だけが先行し、読み書き能力がほとんど伸びないままの状態である方が少なくない。そのため評価は口頭能力だけでなく、読み書き能力の評価も並行して作るべきだという意見が出た。日本語を学ぶ際には会話だけでなく、同時に読み書きも学ばなければ文字（特に漢字）学習に対するモチベーションが下がってってしまうからという考えからだ。また読み書き能力の差は、日本社会で得られる情報量に差を生み出し、学習者の生活に影響を与える。読み書き能力の評価を策定することで、学習目標が明確になり意欲的に学習に取り組めるような仕掛けが必要ではないかという意見があがった。

しかし、ワーキンググループメンバーにとって評価を作るという作業は初めてであり、しかもメンバーは評価の策定作業だけでなく、浜松市外国人学習支援センターや他機関の日本語教室で活動をしており、時間的、人数的に見て読み書き能力の評価を今年度作るとは難しいという判断となった。

評価基準は現場から

読み書き能力の評価策定の議論を経て、ワーキンググループ①では口頭能力の評価基準を作ることが決定した。

評価基準はイーストウエスト日本語学校の会話レベル表を参考にして進めたが、より「地域らしさ」を出すために、地域の日本語教室で出会った学習者について話し合った。そして彼らの日本語について、メンバーが気になっていること、気になったことを具体的に挙げることにした。

- ・男性の学習者の一人称が「俺」のまま定着し、切り替えができない。

- ・体を動かすアクティビティに熱中するあまり、同じクラスの学習者に「こっちおいで！」と強い口調で呼びかけた。小さい子どもがいる学習者だったため、家庭内の言葉がそのまま出た？
- ・方言がコンプレックスの学習者がいる。
- ・職場では敬語を使って話していたが、同僚から「水くさい」と言われた。
- ・「おじさん」のことを「親父」と言ってしまう、周りの日本人に笑われた。

上記のエピソードは一部であり、このような事例が続々と挙がる中で、特に口頭能力のレベルが高い学習者に対し「学習者が TPO や相手との関係性を意識できず、日本語の切り替えができていないこと」が多いのではないかという結論に至った。

「正確さ」に気づく？

学習者の中には自らの口頭能力に自信を持っている人も多い。一部ではあるが、中には発話量が多いというだけで話題が乏しく一貫性と結束性の無い内容しか話せない人もいる。彼らの学習へのモチベーションは低く、日本語教室に通い始めてもすぐに姿を消してしまうことも多々ある。

彼らとの会話は聞き手への負担が大きく、日常生活の些細なことでは問題にならないかもしれないが、妊娠時の診察や乳幼児検診で相談する、保護者会で意見を述べる、子育てについて話し合う、自分の行動の誤解を解くといった複雑な話題になると壁にぶつかる。そういった彼らへの「気づき」を促すために、評価の尺度に「正確さ」を入れるべきではないかという声があがった。

また地域で主婦・主夫として暮らす外国人は、日本人配偶者やその家族、学校関係者と日本語で話す機会も多い。聞き手への負担を軽くし、常に誰かに支援されるのではなく、地域社会の中で自立して暮らしていくためにも「正確さ」という指標は必要ではないかという意見があがった。

「正確さ」とは何か

評価の方法は、尺度を「コミュニケーション」と「正確さ」の2本柱にして、コミュニケーションはタスク、正確さは発話の質で測定するということで検討を始めた。初めは、2つの尺度の段階はそれぞれ別に表記することにした。コミュニケーションはA～Eの5段階、正確さは1～5の5段階といった形である。例えば話している内容は稚拙だけれどある行為（例：品物を返品・交換する）が達成できればC2、同じ行為をより洗練された日本語でできればC5という評価である。

しかし、一言で「正確さ」といってもそれは文法事項だけではない。ワーキンググループ①ではOPIを参考に「正確さ」を以下のように分けることとした。

①流暢さ ②文法・語彙 ③語用論的能力 ④発音 ⑤社会言語学的能力である。

①流暢さは、浜松市外国人学習支援センターの学習者のレベルでは求められないということで評価項目には入れない。②文法・語彙は、日本語を組み立てる部品として必要である。③語用論的能力は、会話の不備を補うストラテジーを見るために必要である。④発音は、発音自体を評価するのではなく、正しく発音されず相手に伝わらなかった場合のストラテジーを見るということで評価項目には入れない。⑤社会言語学的能力は、特に相手との関係性や TPO を理解しているか見るためにロールプレイで判断することとする。とした。

判定基準表は左側にコミュニケーションの判定 A～E、それに対応した浜松市外国人学習支援センターの教室名（例：会話クラスレベル 0）、各レベルに応じたタスクを記した。右側は正確さの判定 1～5、文の生成能力（下位項目にテキストの型、文法、語彙、語用論的能力・ストラテジー）と態度を記した。文法と語彙は組み合わせられテキストの型として表出されたと考えた。

※当時の評価基準

判定	U-ToC の教室	タスク	判定	文の生成能力			態度 社会言語学的能力？	
				テキストの型	文法	語彙	語用論的能力 (ストラテジー)	受身的or積極的 ウチとソト TPO & 相手 ※ロールプレイ

評価基準表の内容には、浜松市外国人学習支援センターの会話クラスで用いたタスクを盛り込んだ。例えば判定 A のタスクは会話クラスレベル 0 で行われた「名前が言える」「挨拶が言える」「出身国が言える」とした。そして教室現場で目にする学習者の特徴を文の生成能力に記載していった。例えば判定 1 は会話クラスレベル 0 の学習者の特徴として「テキストの型：語」「文法：文法能力は無い」「語彙：丸暗記した語彙・挨拶など」「語用論的能力：なし」となった。

評価基準表の見直し

評価基準表の枠組みと中身が大まかにできたところで、研修として嶋田講師にワーキンググループの話し合いに参加して頂いた。

その結果、評価の判定は一つの軸でスパイラルに展開すること、評価基準表の名称をわかりやすく変更すること、文の生成能力は項目ごとではなく「その他の要素」として文章化すること、半構造化インタビュー（自然な会話のように見えて聞きたいことは決まっている）を目指すことが決まった。また判定は A～D という表記でなく **Communication** の C を取り、最終的に C0～C8 まで作ることができた。

※最終的に決まった評価基準

判定	できることの例	質問の例	その他の要素
----	---------	------	--------

テキストの型は評価の目印か

評価基準表の「できることの例」をスパイラルに展開するために、身近な話題を 4 つ（家族・自国・趣味・食べ物）決め、メンバーでテーマを割り振った。各自、担当したテーマ

で C1 から順に「できることの例」を作り、持ち寄ったものを議論していった。それらをもとにインタビューの大まかな流れができたのである。※P.35 <POINT①>参照

そしていよいよ浜松市外国人学習支援センターに通う学習者へインタビューが始まった。ワーキンググループ①では、文字起こしした原稿を持ち寄り、インタビューを判定し、判定基準表の内容について議論を重ねた。この作業を進める中で、判定がテキストの型とそれに付随する文法や語彙にとらわれてしまうことに気が付いた。学習者が単語、単文、複文、段落のどの形で話すのかという点は非常にわかりやすい判定の目印となるのだが、逆にそればかりに目が行き、「できることの例」と一致しないことが多々あった。できることの例を中心に評価していくために「テキストの型」という項目は評価基準表から削除することになった。

【ワーキンググループ②（就労者・求職者向け）】

評価の方向性の確認

評価内容

企業日本語教室の事例報告

評価項目検討

ひらがなカタカナテストの方法

安全確認使用語彙テスト

個人データ書き取り

タスクテスト内容検討

タスクテストとロールプレイの比較検討

評価シート検討

マニュアル検討

【議論の争点】

評価の方向性

ワーキンググループ②のメンバーは、前述の通り、様々な立場で外国人労働者と接する経験をもつ。それぞれの現場で、日本人上司や企業が外国人労働者に求める能力を出し合い、何を評価するか、何のために評価するかが話し合われた。議論を深める中で、外国人労働者を日本語能力だけで判断せず多様な能力を考慮し正當に評価してほしいという意見があがり、彼らへの励ましや日本社会に対しての理解促進となるような評価の方法を検討していくことになった。

誰を評価するか

評価する対象は大まかに就労者とあるが、何の分野で働く就労者なのか、求職者を含めるのかという点が話し合われた。対象分野については、浜松で外国人が多く働く現場として製造関連の工場があげられ、対象者を第2次産業・工場作業従事者へと絞っていった。また、求職者に関しては、浜松に在住する外国人労働者の多くが派遣による工場作業従事者であるということから、求職⇔就労を繰り返し行っているとみなし、対象に含むこととした。

企業担当者の要望や企業内日本語教室の事例検討

聞き取り調査により、企業の日本人社員が下記の点を望んでいる事がわかった。

①理解できるまで確認をしてほしい。わからないことを伝えるスキルをつけてほしい。

②工場における安全衛生標識、日常生活における交通標識を理解し、自分や相手の身を守ることを身につけてほしい。

③企業の生産現場では作業の手順を習得し、安全性を優先しながら、不良品を作らないことが大切である。

④何をしたことによって不良品になったのかという原因解明やどうすればいいのかという改善案のアイデアを日本語で説明したり、伝えることができるとよい。

⑤休憩時間に職場の従業員とコミュニケーションができるとよい。それにより、人間関係が円滑になることが望まれる。

⑥「報・連・相」のスキルを身につけてほしい。

働く上では、業務を遂行するためのコミュニケーション能力が必要なのはわかるのだが、それは時として非言語でのコミュニケーションでも成立するのではないかという意見もあった。

評価の項目

JITCO の日本語チェックシート(<http://hiroba.jitco.or.jp/>よりダウンロード可) を参考にし、職場で必要とされる日本語能力の中で、日本語支援者と企業担当者がそれぞれ判定する項目に分け、日本語支援者が判定する項目の測定方法を開発すればよいのではないかという意見がでた。また、企業担当者の負担を軽減するために、企業担当者が判定する項目を日本語支援者が代わりに判定するにはどのような内容にすればよいかを考えた。

例えば、JITCO の日本語チェックシートの 16～25 の場合、日本語支援者がタスクを指示し、被験者がそれを遂行できるかをチェックするのはどうかという意見が出た。ただし、このタスクは各企業の実際の業務内容とは異なり、試験の時間(15 分ほど)で確認できる一般的な内容でなくてはならず、タスクで使用される語彙が被験者の生活言語であること、タスクの内容や指示が一般的であること、また子供っぽい内容にならないように気をつけることが検討事項としてあげられた。

さらに、チェックシートを参考にし、ひらがな・カタカナの読み書きを判定すること、安全確保をするために安全標識語彙の理解を判定することを決め、場面に応じた挨拶や休み・早退・遅刻等のやりとりに関してはロールプレイで判定するのがよいのではないかという意見があがった。

また、就労するためには履歴書を書くことも必要とされることから、住所、氏名、生年月日、性別等の個人の基本データを書く事ができるかも測ったほうがよいのではないかという意見も出た。

ひらがな・カタカナテストについて

メンバーがそれぞれの教室でひらがな・カタカナテストを試してみたところ、全く書けない学習者がいることが明らかになった。しかし、彼らが就労し日常生活を送っているのも事実である。その様な状況の中、ひらがな・カタカナができない学習者がいるというこ

とを、逆に日本語学習の必要性を企業に提案する機会として捉えられないかという意見があがった。

くしくも、ワーキンググループ①では、読み書き能力の評価が必要だという認識があったものの、物理的制約により保留となっていた。読み書きを客観的に評価されることにより学習意欲の向上にもつながるのではないかという意見もあがったことから、ひらがな・カタカナテストを評価項目に含めることとした。

安全標識語彙確認テストについて

就労中の安全を確保するためにも、作業現場でよく見かける様々な安全標識の語彙を理解することが不可欠ではないかという意見があがり、どのように理解を測るかを議論した。漢字の読みに関してはひらがなで書いたものを選ぶ事で測ることができるが、意味を日本語で記述するのは困難だろうということ、母語での回答では採点の体制が整わないということから、漢字、ひらがな、標識の画を線で結ぶ事で測ることとした。

タスクテストについて

タスク遂行評価はワーキンググループ②の評価の主軸となる可能性が高いのではないかという認識の中、タスクの内容についての検討を進めたが、議論は非常に紛糾した。

タスク遂行能力は各企業によって測りたいものが違うのではないかと、既に各企業で測っている可能性もあり、その場合、この領域を測ることに企業側が価値を見出すのかという意見が出された。また、職場でのコミュニケーション力を測るのであればロールプレイの方が有効ではないか、ロールプレイの中にタスクを盛り込めば、タスクテストで測りたい内容を測れるのではないかという提案もあがった。

一方、タスクテストを推進する側は、「タスクテストでは口頭能力とは異なる業務の遂行能力や対応力を一連の作業のタスクを実施することによって測ることができる。一連の作業を実施することにより、工程毎に段階的にタスクの達成度をはかり数値化することができる。」という有効性を主張した。そこには、日本語ができなくてもタスクは達成できる、日本語能力だけで全てを判断しないでほしいという外国人労働者に対する熱い思いが根底にあったとも言えるだろう。それに対して、すでに日本語が話せなくても労働者として働いている外国人が多数いるという現実を鑑みる限り、日本語以外の能力を積極的にアピールすることは、現在の状況（外国人労働者の周辺化）を助長していることにならないかという反対意見も出された。

最終的に、業務の遂行能力や対応力と日本語能力に差が見られる外国人の存在を見える化し彼らの存在が製造業の街「浜松」を支えてくれている点を社会に知らせる契機とすること、さらに問題提起を行うことで日本語教育の重要性を社会へ投げかけるという目的をもって、タスクテストの開発を進めることとなった。

タスクの内容については、多種多様の仕事の中で、①なるべく共通する作業、②準備が

簡単であること、③作業が一般的であること、④問題を提示し問題解決を課題とすることを重点にタスクの内容を検討し「箱詰め作業」「検査」と決めた。

ワーキンググループ①②メンバーの感想（一部引用）

知識導入の研修、そして WG ごとの活動と、めまぐるしく常に時間に追われていた。今回、なんとか内容をまとめることはできたが、まだまだ不十分で、このまま報告されるのは正直かなり抵抗がある。WG での活動は実質半年余り。このような短期間で評価基準を作成することは難しい。汎用性の高い基準を作り上げるためには、より多くのデータ（インタビュー）をとる必要がある。まだまだ使える段階に至っていない。時間をかければいいというものでもないが、じっくり腰を落ち着け数年間かけて取り組んでいく内容だと思う。(WG①)

評価を作ることによって今後どのような授業づくりをしていくべきかが見えた。評価のレベルを考えることで学習者の弱点が明確になった。学習者が「何ができるようにならないといけないのか（できること）」が明確になった。インタビューを行なうことで学習者の能力を知るよい機会となった。メンバーとの活動は非常に有意義で互いに多くの面で勉強になったと思うが、深いところまでの議論には至らなかった（知識不足と時間不足によるものだと考える）。できることなら今後もインタビューを続け、収集したデータを基に再度評価内容をより詳細に検証していきたい。さらに、この活動に必要な知識を身につけたい。(WG①)

課題を多く残したが、少ないミーティング回数にもかかわらず、最後に何とか形らしくなってほっとしているのが現在の正直な感想である。会合日時の設定が難しいという短所があったが、グループに外国人学習支援センター関係者以外のメンバーが加わったことは良かったと思う。4人のメンバーともに色々な職場経験をしているが、外国人労働者が働いている企業で現在も勤務しているメンバーがいたおかげで、実際の職場の様子を想像する事が出来た。しかし反面、1会社における就労現場の状況を重視し過ぎたかもしれないと反省をしている。

ワーキンググループ①との連携ももう少し強めたかった。インタビューの内容がほとんどわからないままに進めたために、整合性がとれているのかの不安が残る。(WG②)

振り返ってみての感想は、仲間にも恵まれ、なかなか充実していて結構楽しく進めてこられたこと。大きな問題もなくここまでの形にできたのはメンバーの構成によるものも大きかったと思う。初めてのことで、全く分からない状態からのスタートだったが、いろいろな立場（学習者・企業・支援者・評価者）から考えて、それを具体的な形にしていく過程が毎回充実していて楽しかった。当初から、何のために浜松版の評価を開発しなければ

いけないのか、それぞれの立場の方たちに、このテストがどんな意味があるのかを考えながら仕事を進めた。いわゆる日本語能力試験で広く行われているテスト内容と重複しないよう、このテストの存在意味を忘れないように考えた。その為、既存のテストとは大きく形が異なることとなったが、本当にその方向性でいいのか自問することも多かった。(WG②)

ワーキンググループ①からうまれたインタビューテストは、語弊を恐れず例えるなら、父性的な観点「日本に長く住むと決意したなら日本語ができた方がよい。仕事の幅も広がり生活の質も向上し、選択肢の数が増える。そのためには努力が必要だ。」の表れではないだろうか。一方、ワーキンググループ②からうまれたタスクテストは、例えるなら母性的な「日本語ができただけで全てを判断しないでほしい。他のできるところを認めてほしい。」という観点の表れと言えるのではないだろうか。

どちらも、普段接する外国人学習者や外国人労働者のことを思っの気持ちの表れなのだが、大切なことは、外国人支援を考えた時に、どちらの思いも重要であり両輪のバランスが必要だということではないだろうか。今回、ワーキンググループ①と②からうまれたそれぞれのテストはまだまだ精査の必要はあるものの、外国人に対してのエンカレッジやエンパワメントの在り方そのものを考える良い機会となった。

また、コーディネートの役割についてもいろいろと勉強になった。ワーキンググループでの議論において、方向性の違いが出てきたときにどのようにすり合わせ着地させるかが腕の見せどころであろうが、まだまだ力量が足りず、混乱の原因を作ったこともあったと反省している。

しかし、外国人に対する日本語教育の在り方やその意義等について、皆で熱い議論をするのは非常に有意義な時間だった。一緒に活動してくれたメンバーの方々に感謝している。(事務局)

浜松版日本語能力評価システムの考え方

【目的】

浜松市の多文化共生を目指す取り組みの一環として、外国人住民の自立と生活ステージの向上を図るために、個人がもつ日本語コミュニケーション能力を浜松版日本語コミュニケーション能力テストで視覚化（見える化）し、その評価を活用することで、外国人住民、日本人支援者、日本社会のそれぞれに具体的な波及効果をもたらすことを目的とする。

【目標】

- ・外国人学習者には、日本語学習意欲の向上、及び学習継続の動機づけになること。
- ・日本語支援者には、地域に在住する生活者としての外国人に対する継続的かつ効果的な日本語教育プログラムの設計に役立つこと。
- ・日本社会には、評価の結果から生活者としての外国人の日本語習得の特徴を分析し、課題を明らかにすることによって、日本語教育環境整備の理解を促すこと。

【評価者】

この評価システムを実施する評価者（テスト）は、テスト養成研修を受けた日本語教師の資格（日本語教育の主専攻または副専攻の修了、日本語教育能力検定試験の合格、日本語教師養成講座 420 時間の修了のいずれか一つ以上）を有する者で、かつ、学習者の発話を引き出しそれに対し臨機応変な対応ができることが望ましいとする。

浜松市外国人学習支援センターの会話クラスでは、①チャレンジ（タスク・場面提示）、②学習者の発話の引き出し、③整理・修正、④再チャレンジ、⑤活動の順に行われている（図 1）。支援者はすぐに助け舟を出すのではなく「待つ」姿勢が重視される。この姿勢は評価者にも同様に求められる。

①チャレンジ

生活者としての外国人が日常生活で遭遇し得る場面で、日本語での会話が必要なタスクを自然な形で提示する。

②引き出し

学習者は自ら持つ日本語コミュニケーション能力を駆使し、タスクの達成を試みる。支援者は学習者の発話を引き出すために待つ。

③整理・修正

学習者の発話内の誤用を整理し修正する。支援者は、学習者同士が間違いに気づき修正し合えるようピアラーニングを促す。

④再チャレンジ

①と同じタスクを与え達成できるか確認する。できなかった場合は、②・③を繰り返す。

⑤活動

他の場面でタスクが達成できるようにコミュニケーション活動を行い、学習者は授業の行動目標ができるようになる。また、復習の会話活動にて自由に会話をさせ、既習事項をスパイラルに定着させていく。



図 1. 浜松市外国人学習支援センター会話クラスでの活動内容

インタビューでは、学習者の口頭能力がどの水準まで達しているかを客観的に評価する必要がある。そのため、主観的な判断ではなく、学習者の発話を注意深く聴き、的確な質問を紡ぎ出さなくてはならない。

また、評価の結果はクラス分けに利用され、学習者の学習意欲に影響を与えることも考えられる。そのため評価者は、評価結果をもとに学習者に適切なフィードバックを行い、日本語学習継続の動機づけとするとともに、これまでの学習プログラムが適切だったかの振り返りを行い、改善していかなければならない。こうした理由からも評価者の養成研修が必要と考える。

【評価の観点】

浜松における地域日本語教室で出会う学習者の日本語能力の特徴の一つとして、「話す聞く能力と読み書き能力に大きな開きがある」ということがある。発話は多いのに板書を書き写せない学習者や、保護者が学校等のお便りが読めないために子どもの持ち物が揃わないというエピソードも少なくない。では、彼らとのコミュニケーションは成立していないかと言われるとそうでもなく、彼らは様々な言語、非言語コミュニケーション能力を駆使して、仕事に就いたり、家庭を支えたり、子育てを行ったりと生活者として日本に根付き始めている。

以上の様な現状を鑑みて、今回の評価システムでは、読み書き能力が主に必要なテストでは測りきれない口頭能力を中心に、学習をする上で最低限必要なひらがなカタカナを書く能力、生活をする上での危険予知能力、仕事をする上で必要とされる課題遂行能力を数値化し評価する。

また、評価結果をもとに学習者に適切なフィードバックを行い、日本語学習意欲の向上及び学習継続の動機づけとするとともに、これまでの日本語学習プログラムが適切だったかの振り返りを行い改善していくこととする。

【今後の課題】

何のための評価か、誰のための評価か何度も議論するなかで徐々に道筋は見えてきたのだが、開発の具体的な方法がわからず、形を作るのに時間がかかった。そのため、とにかく時間が足りなかったというのがワーキンググループメンバー共通の感想である。今回開発されたテストにおいてはまだまだ改善の余地がある。今後は、さらにデータを蓄積し、それらの結果を検討し改善していきたい。以下に、各テストの課題について述べる。

インタビューテスト

・レベルの広がり

浜松市外国人学習支援センターの学習者にインタビューを取り続けた結果、C1～C5のレベルにサンプルが偏った。公的施設として初期指導を目指す浜松市外国人学習支援センタ

一では、一番上のレベル3の会話クラスに在籍する学習者であっても、インタビュー評価基準のレベルではC4、5相当であった。また、C5相当の口頭能力が身につく頃には、学習者は仕事を見つけセンターから巣立っていく。そのためC6以上のインタビューを取ることが困難であった。

結果として、インタビューはC1～C5のサンプル数が多くなり、またワーキンググループ①のメンバーも日本語教室で関わる機会の多い学習者がC1～C5相当のレベルであったため、議論もそのレベルに集中した。今後の課題としてC6以上のインタビューをより多く取り、評価基準表の項目を再検討し、レベルの広がりをもどのように持たせていくのかを話し合う必要がある。

・判定が困難な学習者

インタビューを重ねるなかで、発話量が多いというだけで話題が乏しく一貫性の無い内容しか話せない学習者に会うことがあったが、その判定は非常に困難であった。その学習者は「できることの例」はある程度こなせるのだが、ロールプレイは全くできない。こういった事例をどのように評価していくのかは、これからもインタビューを重ねながら検討していく必要がある。

・話し手の態度（非言語コミュニケーション）をどう判断するか

判定がC1、C2であっても非常に積極的にコミュニケーションを取ろうとしている学習者もいた。こうした非言語で現れる話し手の態度をどう判断するかという議論になった。積極的に話そうとする姿勢は言語を習得していくうえで非常に素晴らしい態度であるため、評価シートの特記事項に記載し、学習者本人に伝えエンカレッジの一つとして利用するという結論になったが、その具体的な方法については時間が足りず議論を深めることができなかった。

・ロールプレイカードの内容

ロールプレイではTPO、相手との関係性を理解した話し方ができるかどうかを測る。内容は文化庁の標準的カリキュラム案を参考にし、実際に浜松市外国人学習支援センターの学習者が遭遇した場面を設定した。インタビューの中では様々なロールプレイを試んだが、ロールカードの内容がレベルにふさわしいものなのかはインタビューを重ね検証していく必要がある。

ひらがなカタカナテスト

穴埋めパターンを複数準備する必要がある。ディクテーションの語彙候補を増やす。

安全標識語彙テスト

ワーキンググループ②では、就労者・求職者を評価の対象とし、浜松の現状を鑑みるとそれは主に第2次産業の工場作業従事者を想定していた。そのため、当初は工場内使用語彙として検討していたため、工場で使用される語彙に偏りがある。生活上の安全ということからも、語彙を再検討し、テストパターンを複数準備する必要がある。

タスクテスト

時間が足りない焦りもあり、議論を尽くしきれずに何を測るのがぶれた。

運営委員会で仮テストの報告を行ったところ、何を測りたいのか見えにくい、タスクの与え方に課題があるのではないかと指摘があった。今回、完成したタスクテストでは、作業標準書の読み取り能力が重視される。職場でのコミュニケーション能力を測るのであれば、日本人社員と口頭でやりとりが必要とされる内容が良いのではないかというアドバイスがあった。

このタスクで何を測るのか、職場でのコミュニケーション能力なのか、課題遂行能力や対応力なのか、そして何のために測りたいのか、そこをもう一度議論し直す必要がある。将来的にはタスクテストそのものの見直しやインタビューテストへの1本化も選択の一つであるとする。

また、タスクテストの内容を議論している最中に保留となった待遇表現を、評価項目として取り入れるかどうか検討する必要がある。

テストの結果について

ワーキンググループ①と②のそれぞれの測定方法や評価基準が形になり、最終的には、それぞれのテスト結果を合わせたものをレーダーチャート形式で表したいと考えた。しかし、項目ごとの配点や難易度のばらつきと、インタビューの点数化については正確さが曖昧なため見直す必要がある。また、評価のわかりやすい可視化を行うためにも、レーダーチャート以外の表示も検討する。そのほか、それぞれのテストにおいて学習意欲を喚起するようなフィードバックの方法を検討する必要がある。

テスト実施時の環境について

仮テストを試行した際に、テストの目的や内容の説明が足りず、学習者に不安を与えたのは否めない。また、試行に協力してくれた学習者に感想を聞くと、一様に緊張したという回答が返ってきた。趣旨説明の多言語化やテスト実施時の環境づくりを検討する必要がある。

テストターの養成について

今回開発したテストは、学習者を評価することが第一目的ではなく、評価結果を活用す

ることが最重要だと考える。そのため、評価を適切に行い、学習者、支援者、地域社会のそれぞれに対し有意義なフィードバックの方法を考え、手続きに移せる人材を養成することが必要である。また、テスターは結果を踏まえ、自身の日本語教育プログラムが適切であったかどうかを振り返り、授業へ活かしていくことも必要である。上記の様な活動ができる人材を養成する具体的な方法についても検討が必要である。

浜松版日本語コミュニケーション能力テスト

【テストの構成】

内容	技能	問題数	制限時間	配点
ひらがな	書く	10 問	2 分	20 点 (2 点×10 問)
カタカナ	書く	10 問		20 点 (2 点×10 問)
ディクテーション ひらがな	聞き取って書く	3 問	1 分	30 点 (10 点×3 問)
ディクテーション カタカナ	聞き取って書く	3 問	1 分	30 点 (10 点×3 問)
安全標識語彙	漢字を読む 意味を示す	読み 8 問 意味 8 問	5 分	8 点 (1 点×8 問) 8 点 (1 点×8 問)
インタビュー	話す、聞く		15 分	C0～C8 段階
タスクテスト①	聞く、話す、読む		5 分	50 点
タスクテスト②	聞く、話す、読む		5 分	60 点

【内容物】

- ・ ひらがな・カタカナテスト実施マニュアル 31,32
- ・ ひらがなテスト用紙..... 33
- ・ カタカナテスト用紙..... 34
- ・ 安全標識語彙確認テスト実施マニュアル 35,36
- ・ 安全標識語彙確認テスト用紙..... 37
- ・ インタビュー実施マニュアル 38~42
- ・ ロールカード 43,44
- ・ インタビュー判定基準表 45
- ・ インタビュー評価シート 46
- ・ タスクテスト実施マニュアル 47~51
- ・ 作業標準書 52
- ・ 検査手順書 53
- ・ タスクテスト採点表..... 54,55
- ・ タスクテスト採点基準表 56,57
- ・ 結果一覧表 58
- ・ 結果シート 59

ひらがな・カタカナテスト 実施マニュアル

◆ 準備物

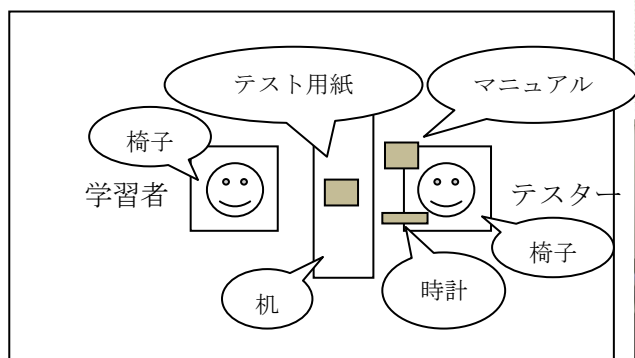
評価を行う際には下記のものを用意してください。

No.	名称	必要数	用途	備考
1	ひらがなテスト用紙	1	ひらがなが書けるか判定します。	虫食い問題 10 問 ディクテーション 3 問
2	カタカナテスト用紙	1	カタカナが書けるか判定します。	虫食い問題 10 問 ディクテーション 3 問
3	机	1	テストを置きます。	
4	椅子	2	学習者とテストターが座ります。	
5	タイマー付き時計	1	テストターが時間を測ります。	
6	マニュアル	1	本紙です。ディクテーション用の語彙が載っています。	

◆ 当日の流れ

1) 準備

学習者とテストターが向かい合うように机、椅子を並べてください。会場は下記のとおり
にセッティングしてください。



※イメージ

2) 実施

評価は下記の手順で実施してください。

1. 学習者と対面で座ります。ひらがなテスト・カタカナテストを一緒に渡してください。最初は 2 分間の虫食い問題です。下記のとおりテストの開始を教えてください。テストターは時間を測ってください。

「今からテストをはじめます。ひらがなとカタカナを書いてください。時間はひらがなとカタカナ 全部で2分です。どうぞはじめてください」

2. 2分経過後、テストの終わりを教えてください。

「はい、終わりです」

3. 次にディクテーションを行います。下記のとおりテストの開始を教えてください。下記の語彙例からひらがな・カタカナ語彙を3語ずつ選び、ディクテーションを行ってください。

ひらがなディクテーション語彙例

おみせ くるま くみたて しごと ぶひん ふりょうひん ざんぎょう

カタカナディクテーション語彙例

マスク カメラ シフト パート プレス リーダー チェック エレベーター

「今から、3回言います。聞いて書いてください。ひらがなを書いてください」

「1番です。(ここです。) ○○ 5秒後 ○○ 5秒後 ○○」

「2番です。(ここです。) □□ 5秒後 □□ 5秒後 □□」

「3番です。(ここです。) △△ 5秒後 △△ 5秒後 △△」

「今から、3回言います。聞いて書いてください。カタカナを書いてください。」

「1番です。(ここです。) ●● 5秒後 ●● 5秒後 ●●」

「2番です。(ここです。) ■■ 5秒後 ■■ 5秒後 ■■」

「3番です。(ここです。) ▲▲ 5秒後 ▲▲ 5秒後 ▲▲」

4. 下記のとおりテストの終了を示し、テスト用紙を回収してください。

「これで、ひらがなとカタカナのテストは終わりです」

3) 採点

ひらがな・カタカナテストの配点は下記のとおりです。採点をしてテスト用紙に点数を記入してください。

種類	配点	小計 (合計 100 点)	備考
ひらがな虫食い問題	2点×10問	20点	
カタカナ虫食い問題	2点×10問	20点	
ひらがなディクテーション	10点×3問	30点	1単語で1文字の間違いは－5点 2文字以上のまちがいは0点
カタカナディクテーション	10点×3問	30点	1単語で1文字の間違いは－5点 2文字以上のまちがいは0点

◆ひらがな

なまえ

a	あ	i	い	u	う	e		o	お
ka	か	ki		ku	く	ke	け	ko	こ
sa	さ	shi		su	す	se	せ	so	そ
ta		chi	ち	tsu	つ	te	て	to	
na	な	ni	に	nu		ne	ね	no	の
ha	は	hi	ひ	fu	ふ	he	へ	ho	
ma		mi	み	mu	む	me	め	mo	も
ya	や			yu	ゆ			yo	よ
ra	ら	ri	り	ru		re	れ	ro	ろ
wa	わ							o	を
n									

◆ききとり

①
②
③

◆カタカナ

なまえ

a		i	イ	u	ウ	e	エ	o	オ
ka	カ	ki	キ	ku	ク	ke		ko	コ
sa	サ	shi		su	ス	se	セ	so	ソ
ta	タ	chi	チ	tsu		te	テ	to	ト
na	ナ	ni	ニ	nu	ヌ	ne	ネ	no	
ha	ハ	hi	ヒ	fu		he	ヘ	ho	ホ
ma	マ	mi	ミ	mu	ム	me	メ	mo	
ya				yu	ユ			yo	ヨ
ra	ラ	ri		ru	ル	re	レ	ro	ロ
wa	ワ							o	ヲ
n									

◆ききとり

①
②
③

安全標識語彙確認テスト 実施マニュアル

◆ 準備物

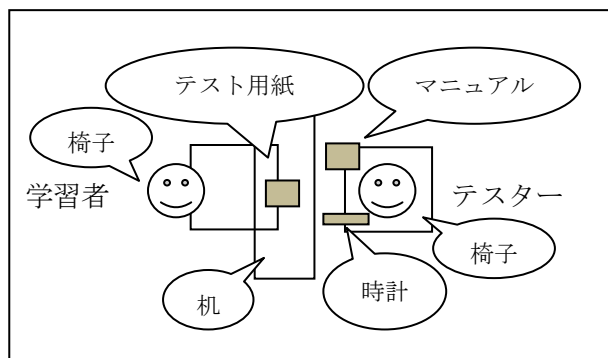
評価を行う際には下記のものを用意してください。

No.	名称	必要数	用途	備考
1	安全標識語彙確認テスト用紙	1	安全標識語彙が読めて意味を理解しているか判定します。	選択問題 16 問
2	机	1	テストを置きます。	
3	椅子	2	学習者とテスターが座ります。	
4	タイマー付き時計	1	テスターが時間を測ります。	
5	マニュアル	1	本紙です。	

◆ 当日の流れ

1) 準備

学習者とテスターが向かい合うように机、椅子を並べてください。会場は下記のとおり
にセッティングしてください。



※イメージ

2) 実施

評価は下記の手順で実施してください。

1. 学習者と対面で座ります。テスト用紙を渡してください。テストの時間は 5 分間です。
下記のとおりテストの開始を教えてください。テスターは時間を測ってください。

「今からテストをはじめます。例を見てください。左と真ん中は『たちいりきんし』。同じです。線を書きます。真ん中と右は『たちいりきんし』。同じです。線を書きます（プ

リントの例題を手でなぞり、線で結ぶことを示す) 左と真ん中、真ん中と右、同じものに線を書いてください。時間は 5 分です。どうぞはじめてください」

2. 5 分経過後、テストの終了を示し、テスト用紙を回収してください。

「これで、テストは終わりです」

3) 採点

安全標識語彙確認テストの配点は下記のとおりです。採点をしてテスト用紙に点数を記入してください。

種類	配点	合計
安全標識語彙確認問題	6.25 点×16 問	100 点

例：立入禁止

かきげんきん



① 頭上注意

たちいりきんし



② 火気厳禁

きんえん



③ 禁煙

ずじょうちゅうい



④ 保護帽着用

ほごぼうちゃくよう



⑤ 喫煙

あしもとちゅうい



⑥ 足元注意

きつえん



⑦ 消火器

ひじょうぐち



⑧ 非常口

しょうかき



インタビュー 実施マニュアル

◆ 準備物

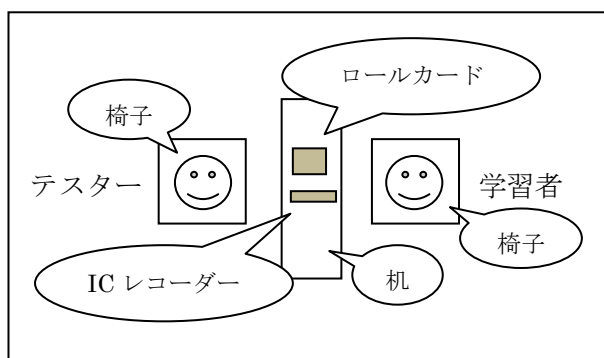
評価を行う際には下記のものを用意してください。

No.	名称	必要数	用途	備考
1	マニュアル	1	本紙です。評価の実施方法、評価基準表を見て判定をします。	インタビュー中に読むことはできません。
2	IC レコーダー	1	インタビューを録音し、後で聞き返しながら判定をします。文字起こしをする際にも利用します。	録音をする時は学習者に録音許可を取ってください。
3	ロールカード	1	C4・5 用のロールカードと、C6・7・8 用のロールカードが 2 種類あります。	C0・1・2・3 だと判断した場合は使用しません。
4	評価シート・筆記用具	1	評価を記録する際に使用します。学習者へのフィードバック、教師自身のスキルアップにも使用します。	インタビュー中に書くことはできません。
5	机	1	IC レコーダー・ロールカードを置きます。	
6	椅子	2	テスターと学習者が座ります。	対面に座ってください。

◆ 当日の流れ

1) 準備

評価は 15 分のインタビューです。会場は静かな場所を選んでください。会場は下記のとおり to セッティングしてください。インタビュー後に音声を聞き返しながら評価シートを記入する際はどのような場所でも構いません。



※イメージ

2)実施

評価は下記の手順で実施してください。

1. 学習者と対面で座ります。テストは学習者から録音許可を取ってください。インタビュー中に時間が確認できるよう、IC レコーダーは分・秒数がテストから見える位置に置いてください。
2. インタビューを開始します。自然な早さで話してください。メモを取ること、マニュアルを持ってインタビューをすることはできません。学習者の発話を促し、話題をスパイラルに展開してください。展開の仕方は後記の「インタビュー例」を参考にしてください。

<POINT①>

この評価は半構造化インタビューです。下記のテーマを参考にインタビューを始めましょう。一つのテーマを中心にして、少しずつ質問の難易度を上げてください。学習者が言語的挫折（沈黙、「わからない」と言う、母国語が出るなど）を示した場合、別のテーマに変えてください。全てのテーマを話す必要はありません。

No	テーマ	質問の例
1	挨拶・名前 国	「おはようございます」「お名前は？」 「お国は？」
2	出身地 来日 家族 仕事 趣味（好きなもの）	「ブラジルのどちらですか」 「いつ日本に来ましたか」 「家族は何人ですか。誰と誰ですか」 「お仕事は？」 「好きな食べ物は何ですか」
3	出身地 家族 仕事 趣味 （例：スポーツ、料理）	「サンパウロはどんなところですか」 「ご主人はどんな方ですか」 「仕事は何時からですか」 「サッカーは誰としますか」 「フェイジョンはどんな料理ですか」
4	出身地・旅行 家族との思い出 仕事の体験 趣味の体験 料理の作り方	「（お勧めの観光地に）どうやって行きますか」 「その時の家族との思い出を話してください」 「仕事で大変な時はどんな時ですか」 「サッカーで一番楽しかった思い出を話してください」 「フェイジョンの作り方を教えてください」
5	ニュース ストーリー アクシデント	「最近あなたの国で気になったニュースはありますか」 「映画のストーリーを教えてください」 「その時何か困ったことはありましたか」

難易度

ルール	「サッカーのルールを教えてください」
比較	「フェイジョンとフェイジョアダの違いを教えてください」

<POINT②>

学習者の話を遮ったり、学習者の意図を汲み取り、先回りして手伝ったりしてはいけません。口頭能力が低い学習者には辛抱強く「待つ」姿勢でインタビューを行ってください。

3. インタビューが 10～13 分を過ぎたところでロールプレイをしてください。ロールプレイは指定のロールカードを使用してください。ロールカードは後記の「ロールカード」を参考にしてください。

ロールプレイは下記の手順で実施してください。

- (1) ロールプレイ前に学習者のレベルを仮判断しておいてください。学習者にレベルを告げないでください。C0・1・2・3 だと判断した場合はロールプレイを行いません。

C2・3 だと判断した場合は、文の生成能力があるか確認するために逆質問を行います。

例：「今まで私たくさん〇〇さんに聞きました。今度、〇〇さんが私に聞いてください」
学習者からの質問には簡潔に答え、2 つ以上質問が出るように待ってください。

- (2) インタビューで話している話題を終結し、ロールプレイを始めることを教えてください。

例：「わかりました。ありがとうございます。それでは今からロールプレイをします」

- (3) レベルに合わせたカードを学習者に渡し、読ませてください。音読する必要はありません。学習者がロールカードに書かれた状況を理解できていなければ具体例を挙げるなどして補足説明をしてください。

- (4) ロールプレイの開始、終了を示してください。

例：「それでは始めます。(ロールプレイの役として) 〇〇さん、今時間ありますか。・・・」

「ありがとうございました。これでロールプレイを終わります」

4. 15 分でロールプレイを含めインタビューを終わらせてください。多少の延長はよいですが、1 分以上伸びてしまうと評価に影響が出る可能性があります。
5. 録音を止め、学習者をリラックスさせ、退室させてください。判定はその場ですぐに行わないでください。必ずインタビューを聞き返して判定してください。

3) 判定

インタビューが終わったら、テストは音声聞き返ししながら、評価基準表（別紙）をもとに学習者のレベルを判定します。判定はインタビューを行なったテストと資格を持ったテストの 2 名で行ないます。判定が大きく分かれた場合は 3 名のテストで評価を行います。音声を聞き返す際に評価シート（別紙）を記入してください。

<POINT③>

インタビューの文字起こしはできる限り行いましょう。文字起こしをすることで気がつかなかった判定の根拠を見つけることがあります。また、テスター自身のインタビューの癖にも気づくことができますので、テスターのスキルアップにも繋がります。

評価基準表の見方

項目	内容
判定	C0 から C8 まで 9 段階でレベルを判定します。テスターはインタビューの過程で常にレベルを意識し、質問をスパイラルに展開します。C は Communication の C です。
できることの例	インタビューで提出された質問（タスク）に対し、学習者が答えられているか（タスクを達成しているか）どうかを判定します。全ての項目を確認する必要はありません。学習者が <u>安定してできている</u> レベルを探しましょう。できることの例が一つできたとしても、そのレベルの中で他の項目が多数できていなければそのレベルではありません。
質問の例	評価基準表の「できることの例」を測るためにインタビューで投げ掛ける質問の例です。質問の例にとらわれず、インタビューの中で臨機応変に質問を作ってください。
その他の要素	学習者の発話の特徴を表します。全てに該当するとは限りません。

評価シートの見方

項目	内容
話題	インタビューで挙げた話題を書きます。 例：サンパウロについて、旅行先でのトラブル
レベル	話題に対し、タスクが達成できたレベルに丸をつけます。
備考	「その他の要素」に挙げられているような特徴、その他気づいたことを記載します。
ロールプレイ 「状況を理解している」	ロールプレイの状況を理解し、相手との関係性を意識した話し方ができているかを判定します。大変できている場合は 5、全くできていない場合は 1 に丸をつけます。 表現例：「(上司に対し) お休みを頂きたいのですが」
ロールプレイ 「間接表現・婉曲表現が使える」	間接表現・婉曲表現が出てきたかどうかを判定します。大変できている場合は 5、全くできていない場合は 1 に丸をつけます。 表現例：×「できません！」 ○「あ～それはちょっと…難しいですね…」
特記事項	インタビューの中で発話としては出てこない姿勢、態度などを記載します。

	例：非常に積極的に話をしようとしていた。相手の話を最後まで聞けていた。
できたこと	学習者ができたことを箇条書きで記載します。 例：〇〇という語の言い換えがわかりやすかった。
勉強した方がよいこと	学習者がこれから学んだ方がよいことを箇条書きで記載します。 例：自分の気持ちを表す語をもっと覚えた方がよい。

ロールプレイカード

C4・5

あなたの会社は今忙しいです。しかし、あなたの両親が日本に
来ました。あなたは3日間休みたいです。上司に話してください。

Agora você está muito atarefado em seu trabalho, porém os seus pais vieram para o Japão.

Você quer folgar 3 dias. Por favor, converse com seu chefe. (ポルトガル語)

It is busy at your company. However, your parents have come to Japan. You want to take 3 days off. Please talk to your superior. (英語)

你们公司现在很忙，可是，你母亲来日本了，你想休息三天，请想上司说明
(中国語)

C6・7・8

あなたは会社の上司に食事に誘われました。理由を言って断
ってください。

Seu chefe convidou você para comerem juntos. Recuse o convite e diga o motivo. (ポルトガル語)

You have been invited to dinner by your superior at your company. Please state your reason and decline. (英語)

上司要请你吃饭，你向上司说明理由，拒绝他的邀请 (中国語)

C6・7・8

あなたは^{とも}友だちに^{しょくじ}食事^{さそ}に誘われました。^{りゆう}理由を^{ことわ}言って断^{ことわ}ってください。

Você foi convidado por seu amigo para jantarem juntos. Recuse o convite e diga o motivo. (ポルトガル語)

You have been invited to dinner by your friend. Please state your reason and decline. (英語)

朋友邀请你吃饭，你向朋友说明理由，拒绝他的邀请 (中国語)

評価基準表

判定	できることの例	質問の例	その他の要素
C8	《どんな話題でも自分の意見、主張を含めて話すことができる》	・あなたが国の指導者だったら、これらの問題にどう対処しますか ・これからどんな映画を見たいですか。どんな映画があるといいと思いますか。 ・年を取ったら（にもが独立したら）どこでこれとどんな生活がたいですか。	・社会生活へのコミュニケーションを達成できる 聞き手に負担なく話ができる 業務上のやりとりは問題なくできる 話者自身の話題のみならず、社会的な話題について説明できる まとまりのある発話ができる ◆ロールプレイ：相手との関係性を意識した話し方ができる（家族・上司）
C7	《経験、アグアメント（出来事）を筋道を立てて話すことができる》 ・最近のニュースについて説明することができる ・スポーツのルールを説明することができる ・映画・ドラマのストーリーを説明することができる ・例を挙げながら違いを説明することができる ・自分に起きたアグアメントについて話すことができる	・最近あなたが国で起きた出来事について教えてください ・サッカーのルールを教えてください ・映画のストーリーを教えてください ・〇〇という料理は家庭ごとに作り方が違いますよね →違いを説明してください。 ・最近、家族にとって何か特別なできごとがあったら話してください。 ・今まで出されて食べられなかった食べ物がありますか →その時どうしましたか。	日常生活の話題に対しては問題なくコミュニケーションを取ることができるが、複雑な説明を求められると回避したり言い足りない 使用頻度の低い言葉には不適切な使い方や、不正確さが見られ聞き手に誤解を与えることがある 発話にはある程度のまとまりがある（始めから終りまで語る） 自分の周りで起きている問題について自分なりの意見が言える ◆ロールプレイ：相手との関係性を意識した話し方ができる（家族・上司）
C6	《過去の経験について詳しく話すことができる》 ・幼年時代の思い出を語る ・あることを詳しく説明できる ・配偶者と知り合ったときつむい情の変化を交えて話すことができる。 ・特別な日に食べる料理とそれに関わる行事について説明できる。	・子どもの頃、一番楽しかったことは何ですか、1番悲しかったことは何ですか ・いつどこで誰とどのように〇〇したんですか、詳しく話してください。 ・ご主人（奥さん）はどうやって知り合ったんですか。 ・誕生日（結婚式）にはどんな料理を食べましたか →その日はどんなことありましたか。	段落の長さで内容のある連続した談話の枠組みを使い、自信を見せながらコミュニケーションを維持できる 聞き手に負担を感じさせることはあまり無い 社会的な話題について説明しようとすると言語的挫折が見られる 発話にはまとまりが見え始める（始めから終りまで語る） 自分の周りで起きた出来事を説明できるが、質的量的にC7より劣る ◆ロールプレイ：相手との関係性を意識した話し方ができる（家族・上司）
C5	《現状を詳しく話すことができる、過去の経験について簡単に話すことができる》 ・旅行経験について簡単に語る ・子どものころ、家族との思い出を話せる ・料理の作り方が言える ・料理の経験を簡単に言える	・（おすすめ場所）にどうやって行きますか（時間／行き方等） ・どの季節がいいですか ・旅行に必要なものは何ですか ・家族の楽しい思い出を教えてください ・サッカーで一番楽しかった経験は何ですか ・今までに日本の料理を作ったことがありますか。誰とどうやって作りましたか。 ・何れ、ましたか ・〇〇の作り方を教えてください	対面で予測可能な範囲の話題に限り、自分から会話を始めたり、継続したりできる 質問に対しては積極的に話し、聞き手に誤解を与えることもあるが、あまり負担を感じさせない 話題によってはまれに言い換えができる（C6より質的量的に劣る） 身のまわりで起きていることや家族・生活について詳しく言える 日常生活の話題にに対してはある程度コミュニケーションを取ることができる ◆ロールプレイ：相手のことを考えながらお願したり、断ったりできる
C4	《一日のスケジュールが言える、理由が言える、現状を簡単に話すことができる》 ・自分の出身地、位置／町の特徴、おすすめ場所等）について、簡単に言える ・特徴が言える（料理、出身地など） ・順序立てて言える ・趣味、仕事について簡単に答えることができる（SWIHI） ・自分の家族を簡単に描写できる ・家族呼称の使い分けができる	・（出身地）はどこなところですか ・おすすめ場所はどこですか ・〇〇はどんな料理ですか ・それはなぜですか ・グルメはどんなスポーツですか。いつも練習はどのようしていますか。 ・どんな映画ですか。 ・ご主人（奥さん）はどんな人ですか。	馴染みのある話題に限り、簡単な会話を維持できる 質問に対しては自分から積極的に情報を伝えようとするが、聞き手に非常に負担がかかる 相づち、フレーズができる 身のまわりで起きていることや家族・生活について簡単に言える ◆ロールプレイ：C5のロールプレイができるかどうかを測る
C3	・自分の出身地が言える ・いつ日本に来たか言える ・職業が言える ・家族の人数と構成を言える。 ・好きなもの、ことが言える（趣味、欲しいもの、したいこと） ・「はいいいえ」で答えられる ・AxBの質問に対して選択して答えられる	・（出身地）は（国）のどこですか ・家族は何人ですか。だれどれですか。 ・好きな食べ物は何ですか。 ・サッカーが好きですか。よくしますか。いつ／誰と／どこしますか。 ・趣味は何ですか。得意な料理はありますか。それは何ですか。 ・映画が好きですか。よく見ますか。日本の映画を見ますか、アメリカの映画を見ますか、インドの映画を見ますか。	言えた言葉、表現や決まり文句を使って（身近な話題に限り、単文で答えることができる 質問に対しては主として受身的だが、時折自分の持っている情報を付け加えて答えることもある C2に比べ語彙量が多く、話題に広がり始める（限られた範囲の語彙数が増えつつある） 自発性が現れ話すことを楽しむ様子が見られる ◆逆質問
C2	【逆】わからないことを聞くことができる（いくら、どこ、何、いつ）		言えた言葉、表現や決まり文句を使って（身近な話題に限り、単語で答えることができる 質問に対しては主として受身的だが、時折自分の持っている情報を付け加えて答えることもある
C1	・挨拶が言える ・自分の名前が言える ・出身国が言える C0＝反応できない	・お名前は何ですか ・お国は	単発的に単語を発する程度である 質問に対し反応するのが嬉しいだけで受身的である

インタビューメモシート

名前(国籍): ()

判定

クラス:

話題	レベル								備考
	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	
	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	
	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	
	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	
	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	
	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	
	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	
	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	

ロールプレイ

状況を理解している	1	2	3	4	5
間接表現・婉曲表現が使える	1	2	3	4	5

特記事項

できたこと

勉強した方がよいこと

判定日:

テスター:

タスクテスト実施マニュアル

このテストは、コミュニケーションの重要な要素でもあり、様々な場面で必要とされる「報告」「連絡」「相談」ができるかを評価するテストです。また、受験者が日本語での指示や説明がわかるかどうかや、受験者に指示や説明をする時にどれくらいの手間がかかるかを評価します。

テストでは、日本語で書かれた作業標準書と検査手順書にそって実際にある作業をするのですが、作業が完璧にできるかということではなく、仮にできないとしても、どの程度の支援があれば作業ができるのか、また不測の事態や予定外の状況に遭遇した時にそれを相談できるか、作業が終了したことを報告できるかという観点で評価します。

◆ 準備物

評価を行う際には下記のものを用意してください。

No.	名称	必要数		最小必要数	写真	備考
		タスク 1	タスク 2			
1	赤箱（不良品を入れる箱）		1	1		
2-1	部品を入れる箱	1	4	5		サイズ 150 × 200 × 100 (mm)
2-2	予備の部品を入れる箱	1		1		
3-1	部品（白）	6	10	16		
3-2	部品（赤）	4	8	12		
3-3	部品（青）	2	5	7		
4-1	取扱説明書	1				表紙のみ 1 枚 パウチ加工
4-2	コード（袋入り）	1				ホームセンター線材コーナー 50cm
5-1	作業標準書	1		1		別紙参照

5-2	検査手順書		1	1		別紙参照
5-3	採点表	1	1			別紙参照
6	マニュアル	1	1	1		本紙
7	タイマー付き時計	1	1	1		

◆ 当日の流れ

1) 準備

①棚やテーブルで部品置き場を作る。

②部品置き場にタスクテスト1で使用するものを準備する。

※不測の事態（白 A301 が一つ足りない状態）を作りだすために、赤 A101、赤 A102、青 A201、青 A202、白 A301、白 A302 をそれぞれ 2 個ずつと取扱説明書、コードを並べる。



③別のテーブルに、検査場を作る。

④検査場に、正しく部品がセットされた箱を 2 セット、間違ってセットされた箱を 2 セット、合計 4 セットと赤箱（不良品入れ）を準備する。



⑤タスクテスト1で部品を入れる空箱、予備の部品が入った箱、作業標準書、検査手順書をテスト実施者の手元に準備する。



2) 実施

タスクテストは 2 名のテストで実施します。一人がテストを実施し、一人が受験者の様子を見ながら結果を項目ごとに判定します。それぞれを実施者、評価者と呼びます。テストは下記の手順で実施してください。

タスクテスト 1

1. テスト受験者が入室します。実施者はマニュアルと時計を持ってください。評価者は採点表を持ってください。
2. 実施者はあいさつをし、受験者の名前を聞いてください。
「お名前を教えてください。〇〇さんですね。よろしくお願いします」
3. 実施者は受験者に以下の様に説明してください。
「それではテスト 1 をはじめます」
「今から作業標準書を渡します。よく読んで作業を進めてください」
「終わったら報告してください」
「わからないことがあったら 必ず質問してください」
「時間は 5 分です」

受験者の反応を待ってください

『はい。／わかりました。／もう一度言ってください』等。
→受験者が、わからないことを表出したら、やさしい日本語へ言い直してください。
→→やさしい日本語でもわからないことを表出したら、テストを終了してください。

4. 受験者からの反応を確認できたら、以下の様に説明してください。
「これが、作業標準書と箱です。あそこでやってください」
「それでは、始めてください」
作業標準書と部品を入れる空箱を渡してください。部品置き場と作業を行う場所を示してください。
5. 実施者は 時間計測（5 分）を開始してください。採点者は受験者の行動を観察し、採点評価表に記入を始めてください。
6. 実施者は、受験者から質問があった場合、対応してください。
7. 実施者は受験者から部品が足りない事の報告を受けたら、予備の部品が入った箱の中

から正しい部品を選ぶよう指示を出し、作業の完成を促します。

『部品が（これが）（白 A301 が）足りません（ありません）／これ、ない』等。

「そうですか。では、この中から使ってください」

8. 受験者から終わった旨の報告を受けたら、テスト 1 を終了とします。

『終わりました／できました／終わった／できた』等。

「終わりましたか？それでは、その箱を私にください。」

「これで、テスト 1 は終わりです。ありがとうございました。」

↓タスクテスト 2 へ進んでください。

※5 分以内に終了しなかった場合は、終了の合図を出してください。

「はい、やめてください」

「その箱を私にください」

「これでテスト 1 を終わります。ありがとうございました」

↓これで終了です。

タスクテスト 2

9. 実施者は、受験者にタスクテスト 2 を始めることを告げ、以下の様に説明してください。

「それではテスト 2 をはじめます」

「今から検査手順書を渡します。よく読んで作業を進めてください」

「終わったら報告してください」

「わからないことがあったら 必ず質問してください」

「時間は 5 分です」

受験者の反応を待ってください

『はい。／わかりました。／もう一度言ってください』等。

→受験者が、わからないことを表出したら、やさしい日本語へ言い直してください。

→→やさしい日本語でもわからないことを表出したら、テストを終了してください。

10. 受験者からの反応が確認できたら、以下の様に説明してください。

「これが、検査手順書です。あそこでやってください」

「それでは、始めてください。」

検査手順書を渡してください。検査場所を示してください。

11. 実施者は 時間計測（5 分）を開始してください。テスト採点者は受験者の行動を観察

し、採点評価表に記入してください。

12. 実施者は、受験者から質問があった場合、対応してください。
13. 実施者は受験者から間違っている部品があった事の報告を受けたら、部品置き場から正しい部品を選ぶよう指示を出し、作業の完成を促してください。

『間違っている部品がありました。／間違いあった』等。

「そうですか。では、あそこから正しい部品を選んで、検査手順書の見本と同じように作ってください」

「終わったら、私に持ってきてください」

14. 受験者から終わった旨の報告を受けたら、終了とします。

『終わりました／できました／終わった／できた』等。

「終わりましたか？それでは、その箱を私にください」

「これで、テスト 2 は終わりです。ありがとうございました」

→終了

※5 分以内に終了しなかった場合は、終了の合図を出してください。

「はい、やめてください」

「その箱を私にください」

「これでテスト 2 を終わります。ありがとうございました」

→終了

3) 採点

1. タスクテスト 1 で作った箱の中身が見本通りにできているか確認してください。
2. タスクテスト 2 で作った箱の中身が見本通りにできているか確認してください。
3. 評価者は採点表を実施者に見せてください。意見が違う場合は協議してください。

さぎょうひょうじゆんしよ
作業標準書

1	部品・取扱説明書・コードを 用意する。
2	見本の通りに 箱に 部品を 入れる。
3	部品の 色と 数と 位置を 確認する。
4	取扱説明書を 入れる。
5	コードを 入れる。
6	間違いが 無いか 確認する。
7	作業が 終わったことを 報告する。

ようい
用意するもの

部品			
	赤 赤A101 2個		青 青B201 1個
			白 白C301 3個
	取扱説明書 1枚		コード 1本

みほん
見本



かんせいひん
完成品



けんさてじゅんしよ
検査手順書

1	ぶひんいろかずいち 部品の色・数・位置が	みほんおな 見本と同じか
2	とくあつかいせつめいしよ 取扱説明書が	かくにん あるか 確認する。
3	コードが	かくにん あるか 確認する。
4	まちが 間違っている部品が	はい 入っている箱は
5	まちが 間違っている部品が	はい 入っている箱が
	あかばこ 赤箱に	はい 入れる。
	まうちが 間違って	はい 入っている箱が
	あれば	ほうこく 報告する。

みほん
見本



かんせいひん
完成品



タスクテスト 採点表

目的 作業標準書に基づき作業を理解し、行動できる。
【ステップ1 指示理解】 不測の事態や予想外の状況の際に相談・報告ができる。
制限時間：5分 作業ができたなら、確認と報告ができる。

テスト被験者名	
テスト実施者名	
テスト採点者名	

順序	採点基準	採点	評価項目
1	指示を受ける 指示者の話しに対し、理解を表出することができる。 指示者の支援があれば、理解を表出することができる。 指示者の支援があっても、理解を表出することができない。	10点 5点 0点	相手を不安にさせる反応は×。この場合、日本語が理解できないことではなく、指示がわかったかわからなかったかを表現できるか。
2	作業標準書を読む 自力で作業に取りかかることができる。 指示者に支援を求めて、取りかかることができる。 作業をすすめることができない。	10点 5点 0点	作業標準書を理解できるか。 質問ができるか。
3	部品が足りない事を報告する 部品が足りないことを報告することができる。 指示者に支援を求めて、部品が足りない事を報告することができる。 報告、相談がない。	10点 5点 0点	不測の事態や予定外の状況を報告できるか。
4	作業(外箱に部品を詰める) 作業標準書どおりに正しく詰めることができる。 正しく詰める事ができない。	10点 0点	指示を理解して行動に移せるか。
5	報告する 作業が終わったことを報告することができる。 指示者に支援を求めて、報告することができる。 報告がない。	10点 5点 0点	作業が終了した事を報告できるか。
小計		点	

タスクテスト 採点表

テスト被験者名	
テスト実施者名	
テスト採点者名	

【ステップ2 検査】 目的 間違っている部品を識別したり、員数確認を行うことができる。
制限時間：5分 誤りを発見し、的確に対処することができる。

順序	採点基準	採点	評価項目
1 指示を受ける	指示者の話しに対し、理解を表出することができる。 指示者の支援があれば、理解を表出することができる。 指示者の支援があっても、理解を表出することができない。	10点 5点 0点	口頭での指示を理解したかどうか表出できるか。
2 検査手順書を読む	自力で作業に取りかかることができる。 指示者に支援を求めて、取りかかることができる。 作業をすすめることができない。	10点 5点 0点	検査手順書を理解できるか。 質問ができるか。
3 不良品の選別	間違っている部品を選別し、赤箱に入れることができる。(全数) 間違っている部品を選別し、赤箱に入れることができる。(半分) 間違っている部品の選別ができない。	10点 5点 0点	不測の事態や予定外の状況を把握し、検査手順書通りに行動できるか。
4 報告	誤りを指摘し、説明することができる。 誤りを指摘することができる。 誤りを指摘できない。	10点 5点 0点	誤りを指摘し、報告することができる。
5 修正する	誤りを修正することができる。(全数) 誤りを修正することができる。(半数) 誤りを修正することができない。	10点 5点 0点	口頭での指示を理解して行動に移せるか。
6 報告する	作業が終わったことを報告することができる。質問に答えることができる。 作業が終わったことを報告することができる。 報告がない。	10点 5点 0点	検査が終了した事を報告できるか。 質問に答えることができる。
小計		点	

タスクテスト【ステップ1 指示理解】 採点基準表

	評価項目	10点	5点	0点
1	相手を不安にさせる反応は×。この場合、日本語が理解できないことではなく、指示がわかったかわからなかったかを表現できるか。	指示：この、作業標準書を読んで作業を進めてください。終わったら報告してください。わからないことがあったら必ず聞いてください。>>はい。わかりました。もう一度言ってください。	指示：これを読んでやってください。終わったら言ってください。わからなかったら聞いてください。>>はい。わかりました。うなづく。	
2	作業標準書を理解できるか。 質問ができるか。	作業標準書を理解し、作業にとりかかる。 わからない箇所を質問し、作業にとりかかる。	わからない箇所が複数あるが、支援を受けて作業にとりかかる。	
3	不測の事態や予定外の状態を報告できるか。	部品がありません。 部品、足りない。 これ、ない。	あの、ねえ すみません ジェスチャーで伝えようとする	無言
4	指示を理解して行動に移せるか。			
5	作業が終了した事を報告できるか。	終わりました。できました。 はい、これ。	あの、ねえ すみません ジェスチャーで伝えようとする	無言

タスクテスト【ステップ2 検査】採点基準表

評価項目	10点	5点	0点
1 相手を不安にさせる反応は×。この場合、日本語が理解できないことではなく、指示がわかったかわからなかったかを表現できるか。	指示：この、検査手順書を読んで作業を進めてください。終わったら報告してください。わからないことがあったら必ず聞いてください。>>はい。わかりました。もう一度言ってください。	指示：これを読んでやってください。終わったら言ってください。わからなかったら聞いてください。>>はい。わかりました。うなづ。	
2 検査手順書を理解できるか。質問ができるか。	検査手順書を理解し、作業にとりかかる。わからない箇所を質問し、作業にとりかかる。	わからない箇所が複数あるが、支援を受けて作業にとりかかる。	
3 不良品を選別できるか。	不良品を選別し、赤箱に入れることができる。(全数)	不良品を選別し、赤箱に入れることができる。(半分)	不良品が選別できなかった。
4 不良個所を指摘し、報告することができる。	不良個所を指摘し、説明することができる。部品がありません。白い箱がありません。	不良個所を指摘することができる。部品がありません。	不良個所を指摘できない。
5 修正する	不良品を修正することができる。(全数)	不良品を修正することができる。(半数)	不良品を修正することができない。
6 作業が終了した事を報告できるか。	作業が終わったことを報告することができる。質問に答えることができる。終わりました。できました。はい、これ。	作業が終わったことを報告することができる。あの、ねえすみません ジェスチャーで伝えようとする	無言

浜松版日本語コミュニケーション能力評価 結果一覧

	氏名	国籍	性別	年齢	滞在年数	就労年数	読み書き	安全標識 語彙	インタビュー	タスク テスト①	タスク テスト②	合計	実施日(テスト)	判定者
1	カルロス(例)	ブラジル	男	45	7年3ヶ月	5年	90	80	70	85	90	415	2013.3.13(田中)	鈴木
2			男・女		年 ヶ月	年 ヶ月								
3			男・女		年 ヶ月	年 ヶ月								
4			男・女		年 ヶ月	年 ヶ月								
5			男・女		年 ヶ月	年 ヶ月								
6			男・女		年 ヶ月	年 ヶ月								
7			男・女		年 ヶ月	年 ヶ月								
8			男・女		年 ヶ月	年 ヶ月								
9			男・女		年 ヶ月	年 ヶ月								
10			男・女		年 ヶ月	年 ヶ月								
11			男・女		年 ヶ月	年 ヶ月								
12			男・女		年 ヶ月	年 ヶ月								
13			男・女		年 ヶ月	年 ヶ月								
14			男・女		年 ヶ月	年 ヶ月								
15			男・女		年 ヶ月	年 ヶ月								
16			男・女		年 ヶ月	年 ヶ月								
17			男・女		年 ヶ月	年 ヶ月								
18			男・女		年 ヶ月	年 ヶ月								
19			男・女		年 ヶ月	年 ヶ月								
20			男・女		年 ヶ月	年 ヶ月								

浜松版日本語コミュニケーション能力評価 結果

氏名	カルロス(例)	性別	男	滞在年数	7年3カ月
国籍	ブラジル	年齢	45歳	就労年数	5年
備考					

判定日: 2013.3.13

評価: 1 回目

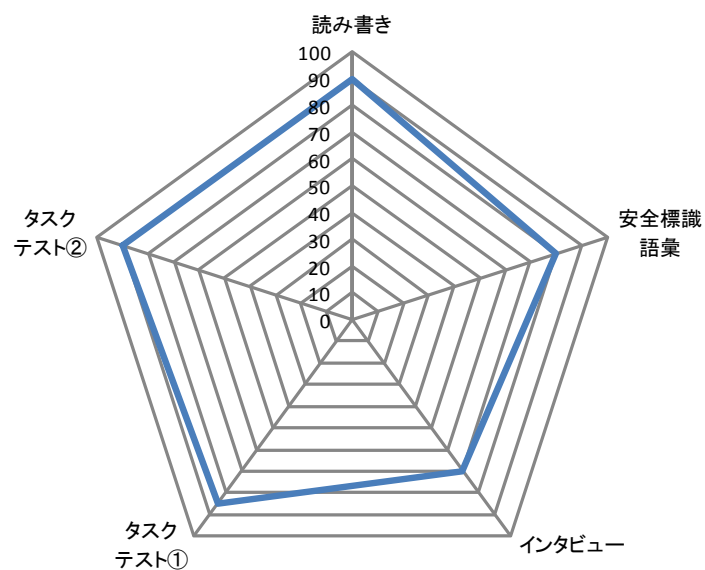
判定場所: ○○○○

テスター: 鈴木

合計

415

読み書き	安全標識語彙	インタビュー	タスクテスト①	タスクテスト②
90	80	70	85	90



特記事項

名簿

運営委員

氏名	所属及び役職
石岡 修	ヤマハ発動機株式会社 IM 事業部企画部 事業企画部長
小林 悦夫	公益財団法人中国残留孤児援護基金 常務理事
嶋田 和子	一般社団法人アクラス日本語教育研究所 代表理事
白井 えり子	With U-Net 代表
柳澤 好昭	明海大学 外国語学部日本語学科 教授
吉山 則幸	公益財団法人浜松国際交流協会 業務執行理事

(五十音順)

ワーキンググループ

ワーキンググループ	氏名	所属
①リーダー	松葉 優子	浜松学院大学 非常勤講師
①	石川 智子	With U-Net プログラムコーディネーター
①	針山 摂子	静岡文化芸術大学 臨時日本語講師
①	水野 佳子	With U-Net プログラムコーディネーター
②リーダー	松本 三知代	財団法人日本国際協力センター 日本語講師
②	白井 えり子	With U-Net 代表
②	村島 理恵	にほんご NPO
②	森本 元祥	With U-Net

事務局

氏名	所属
内山 夕輝	公益財団法人浜松国際交流協会 浜松市外国人学習支援センター チーフコーディネーター
河口 美緒	公益財団法人浜松国際交流協会 浜松市外国人学習支援センター コーディネーター
鈴木 由美恵	公益財団法人浜松国際交流協会 浜松市外国人学習支援センター コーディネーター

※所属は平成 24 年 7 月時点

参考文献

- (1) 石田敏子 (1992)「入門日本語テスト法」大修館書店
- (2) 伊東祐郎 (2008)「日本語教師のためのテスト作成マニュアル」アルク
- (3) 鎌田修・嶋田和子・迫田久美子 (2008)「プロフィシエンシーを育てる～真の日本語能力をめざして～」凡人社
- (4) 公益社団法人国際日本語普及協会 (2001)「あたらしいじっせんにはんご技能実習編」公益社団法人国際日本語普及協会
- (5) 公益社団法人国際日本語普及協会 (編) (2011)「AJALT 日本語研究誌第 5 号」公益社団法人国際日本語普及協会
- (6) 近藤ブラウン妃美 (2012)「日本語教師のための評価入門」くろしお出版
- (7) 財団法人浜松国際交流協会企業日本語カリキュラム開発検討委員会 (編) (2009)「企業内日本語教室カリキュラム開発報告書」財団法人浜松国際交流協会
- (8) 佐藤慎司・熊谷由理 (2010)「アセスメントと日本語教育新しい評価の理論と実践」くろしお出版
- (9) 嶋田和子 (2008)「目指せ、日本語教師力アップ！－OPI でいきいき授業－」ひつじ書房
- (10) 社団法人国際日本語普及協会 (1991)「じっせん日本語 (改訂版) ー技術研修編ー指導員用参考書」社団法人国際日本語普及協会
- (11) 社団法人日本語教育学会 代表林大 (編) (1991)「日本語テストハンドブック」大修館書店
- (12) 東京外国語大学多言語・多文化教育研究センター (編) (2011)「シリーズ多言語・多文化協働実践研究 13 共生社会に向けた協働の地域づくりー『協働型居場所づくり尺度』の開発～長野県上田市における実践と研究」東京外国語大学多言語・多文化教育研究センター

- (13) 中国帰国者定着促進センター教務部紀要編集委員会（編）（2010）「中国帰国者定着促進センター紀要第 12 号」財団法人中国残留孤児援護基金
- (14) 独立行政法人国際交流基金（2010）「JF 日本語教育スタンダード 2010 利用者ガイドブック [第二版]」独立行政法人国際交流基金
- (15) 独立行政法人国際交流基金（2011）「国際交流基金日本語教授法シリーズ第 12 巻『学習を評価する』」ひつじ書房
- (16) 札幌寛子（2011）「日本語教育のためのプログラム評価（シリーズ言語学と言語教育）」ひつじ書房
- (17) 文化審議会国語分科会（2010）「『生活者としての外国人』に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について」文化庁文化部国語課
- (18) 文化審議会国語分科会（2011）「『生活者としての外国人』に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案活用のためのガイドブック」文化庁文化部国語課
- (19) 文化審議会国語分科会（2012）「『生活者としての外国人』に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案教材例集」文化庁文化部国語課
- (20) 文化審議会国語分科会（2012）「『生活者としての外国人』に対する日本語教育における日本語能力評価について」文化庁文化部国語課
- (21) The American Council on the Teaching of Foreign Languages （1999）「ACTFL - OPI 試験官養成用マニュアル」アルク

ウェブサイト

厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/>

JITCO 日本語教材ひろば <http://hiroba.jitco.or.jp/>

とよた日本語学習支援システム <http://www.toyota-j.com/>

ビジネス能力認定サーティファイ <http://www.sikaku.gr.jp/>

みんなの Can-do サイト <http://jfstandard.jp/cando/top/ja/render.do>

付録

インタビュー結果一覧				
	データ名	判定	氏名 (イニシャル)	国籍
1	C1 サンプル1	C1	M	ブラジル
2	C2 サンプル1	C2	C	中国
3	C3 サンプル1	C3	B	インド
4	C4 サンプル1	C4	G	インドネシア
5	C5 サンプル2	C5	R	ペルー
6	C6 サンプル1	C6	M	ブラジル
7	C7 サンプル1	C7	W	ブラジル
8	C8 サンプル1	C8	K	ブラジル

※インタビュー（全 18 サンプル）は、公益財団法人浜松国際交流協会ホームページ
 (<http://www.hi-hice.jp/index.php> → HICE について → 刊行物) にて掲載しています。

判定:C1
氏名:M(ブラジル)

こんにちは。 私はIです。お名前は？ Mさん、お国はどちらですか。 私、日本人です。 Mさんは？	こんにちは。 Mウ（発音できない）・・・Mウ。 ・・・んない・・・ ああ・・・ ブラジル・・・
いつ、日本行きましたか。 2004年？ どのくらい日本にいますか。	・・・えっ・・・きん・・・（かなり長い間） にじゅうねんねんよん・・・ はい・・・ あいい・・・わからない
ご家族は？ 好きな食べものはありますか。 Mさん、コーヒー飲みますか。 コーヒー好きですか。 日本語難しいですか。	え・・・わからない ん・・・あ・・・（困った様子） ・・・ ・・・ はい。難しい。
うちはどこですか。 住所？ 駅の近くですか。 ウチはアパートですか。 アパートの番号、ルームナンバーはいくつですか。 一人で住んでいますか。 友だちの名前は何ですか。 はい？ 男の人ですか。 Fさんは友だちですか。 ずっと一緒に住んでいますか。 Fさんの仕事は何ですか。 Mさんも仕事しますか。 毎日、仕事ありません。ない？ じゃ、毎日、家にいますか。家で何をしますか。 はい。またこれから一緒に日本語を勉強しましょう。今日はありがとうございました。	う～ん・・・ 住所・・・M（地名）・・・M（地名） ん～ caminando・・・ andar（母語で歩くの意味？）・・・日本語で・・・ ・・・アパート・・・ アパートの番号、ルームナンバーはいくつですか。 え～と、〇・・・（アルファベットを指で書きながら） ああ・・・友だちね・・・ T・・・ T F （うなずく様子） はい。 ん・・・ あ、仕事は・・・トー・・・ホクトー・・・。 仕事ない。 仕事ありません。ない。 ・・・あ・・・、ん・・・（わからない様子） あり・・・が・・・ございます。

判定:C2
氏名:C(中国)

こんにちは。 お名前は？ お国は？ いつ、日本に来ましたか。 ああ、12月ですか。今、何月ですか。 何ヶ月、日本にいますか。 Cさんは12月に日本に来ましたね。 今、2月ですね。 ですから・・・。 そうですか。3ヶ月日本にいますね。	こんにちは。 名前はCです。 国は中国です。 あ～、12げつ います。きます。 今、あ～ 2げつ、2がつ・・・ 何・・・？も、いちど・・・ あ～、じゅうにちげつ 来ました。 今、2げつです。 さっ・・・、から・・・3げつ・・・ はい。
お仕事は何ですか。 そうですか。毎日何をしていますか。 料理は好きですか。 どんな料理を作りますか。 たとえば、どんな料理ですか。 そう、おいしいですね。	仕事、今、仕事じゃない。 毎日、家に・・・あ～ 料理 作ります。 好きです。 う～ん・・・ いつも 中国の料理 作ります。 ん～ 野菜 作ります。とチャーハン。ん～とスープ。
Cさん、家族は何人ですか。 誰と誰ですか。 お母さんはどんな方ですか。 お母さんはどんな方ですか。 お母さんはやさしいですか。 お父さんはどうですか。 ご主人はどうですか。 みんなやさしい？	家族・・・ん～ 4人です。 お母さんと お父さんと 私と、ご・・・主人です。 仕事？・・・ ・・・わかりません。 う～ん・・・、や、や、やさしい・・・です。 お父さん、やさしいです。 やさしいです。 はい。
中国のご家族は何人ですか。 誰と誰とですか。 弟さんは学生ですか。 何才ですか。 中国で14才は、高校生ですか、中学生ですか。 中学生ですか。何年生ですか。 中国は勉強大変ですか。	4人です。 私・・・う～ん、父 と 母 と弟。 はい。そうです。 今、14才です。 ん、中学生。 何年生？ あはは、わかりません。 ま、まあまあです。

判定:C2
氏名:C(中国)

弟さんは勉強が好きですか。	ん～、まあまあです。
Cさんは、今 仕事をしていませんね。	仕事？ いません・・・？
仕事ないですね。	私は仕事・・・
仕事ないですね。	ないです。
Cさんは、中国で仕事をしましたか。	中国の仕事・・・学・・・あ～ん、学校の先生です。
学校の先生でしたか！！	ん～、子どもの学校・・・
子どもは大きいですか、小さいですか。	小さいです。
幼稚園？	うん、幼稚園。
何才の子どもですか。	3才と4才。
子どもは好きですか。	好き！かわいい。
何年間、幼稚園の先生をしましたか。	う～ん・・・わかりません。
その幼稚園は大きい幼稚園でしたか。	小さい・・・
子どもは何人いましたか。	私の？・・・全部学校？
はい。	全部学校の・・・ん・・・ひゃく・・・ひゃく・・・110人・・・
110人！たくさんですね。1つのクラス、Cさんのクラスの子どもは何人でしたか。	私の子ども・・・う～ん・・・さんじゅう・・・さんじゅう・・・30人です。
そうですか。30人たくさんですね。	うふふ。
たくさんいたから大変でしたね。	元気です。
中国の子どもは元気ですか。	うふふ、わかりません。
子どもとどんなことをして遊びましたか。	毎日、楽しい・・・う～ん、わかりません。
毎日楽しかったですか。	あ～、よに、4人です。
幼稚園の先生は何人いましたか。Cさん1人だけでしたか。	どんな？？？
幼稚園でどんなことをしましたか。	勉強します。
子どもと一緒に何をしましたか。	はい、そうです。
えっ、3才と4才の子が勉強しますか？！	
どんな勉強をしますか。	んと～、んと～、1, 2, 3, 4と・・・んと～、んと～

判定:C2
氏名:C(中国)

そうですか。すごいですね。 いやあ、中国の子どもはすごいですね。	～、か・・・かて、書いて勉強します。 んと～ あはは・・・わかりません・・・ あはは・・・。
話は変わります。さっきの料理の話ですが・・・。 はい、Cさんは中国の料理を作りますね。 毎日中国の料理を作りますか。 1人で作りますか。 そうですか。お母さんも中国料理を作りますか。 お母さんの料理はおいしいですか。 どんな料理が好きですか。 お母さんの作る料理、何が好きですか。 スーパー？ そばね！ お母さんは料理が上手ですね。	料理・・・ うん。 はい、そうです。 ん～、お、お母さんと、ぱんに 作ります。一緒に作ります。 ん～ ん～・・・いつ・・・中国・・・お母さん、いつも日本の料理作ります。 うん、おいしいです。 ・・・好き・・・ んと～、ス、スーパーと・・・スーパーと。 ソーパ、ソーパ、あっ、そば！！ そばと・・・と・・・すしと・・・わかりません。 うん。
Cさんが幼稚園の先生だったとき、1番楽しかったことは何ですか。 そうですか。今日はCさんとたくさんお話しできて嬉しかったです。ありがとうございました。 今から家に帰りますか。 いいですね。ウチにかえって何をしますか。 家に帰ってご飯を食べますか。 ご飯を作りますか。 じゃ、ご飯どうしますか。 とんぺん？日本語ですか。 ラーメンですか。ラーメンはCさんが作りますか。 いいですね。じゃあ、お母さんと一緒においしいラーメンを食べてく	う～ん、わかりません。 ありがとうございました。 はい、そうです。 〇〇（地名・発音しきれていない） 〇〇（地名）です。 うん、食べます。 ん～、いま～、今、12時。作りません。 んと～、う～ん、とんぺんに・・・。 あはは、ん～ ラーメン。 ん～、お母さん 作ります。 ありがとうございます。

ださい。今日はどうもありがとうございました。 ございました。	
-----------------------------------	--

判定:C3
氏名:B(インド)

よろしくお願いします。 お名前は？ お国はどちらですか。 インドの…？ Bさんはいつ日本に来ましたか。 うちはどこですか。 ユートックにはどうやってきますか。 あ、そうですか。きょうは？ そうですか。電車で来るときは何分ぐらいかかりますか。 自転車はどのくらいかかりますか。 じゃあ、Bさんは電車と自転車、どっちが好きですか。 なぜですか。 どうして電車が好きですか。	こちらこそ、よろしくお願いします。 私の名前はBです。 私の国インドです。 インドのあいだ…ニューデリーです。 あ～去年の4月、日本に来ました。 あ～T（地名）、私はT（地名）に住んでいます。 あ～ユートック、ときどき自転車で、ときどき電車で来ます。 きょうは電車で、寒いですから、電車で来ました。 あ～ん～よんじゅ、よんじゅ、四十分ぐらい…かかります。 同じ、同じです。 あ～電車が好きです。 あ～もういっかい、せんせい？ あ～自転車、大変ですね。
Bさんは今浜松で家族は何人ですか。 誰と誰ですか。 ご主人のお仕事は？ ご主人はどんなお仕事をしますか。 何を作っていますか。	あ～ふたり、ふたりです。 私と私の主人…。 私の主人の仕事、〇〇（会社名）で働きます。 主人はエンジニアです。 あ、車、車の handle
インドの家族のことを教えてください。 インドの家族は何人ですか。 インドのご家族はどこに住んでいますか。 なんていう街ですか。 しずか？町の名前ですか。 どんな町ですか。 浜松とビッグサライ、どっちが静かですか。 お父さんのお仕事、きいてもいいですか。	5人です。私と私の母、父、妹、おにいさん。 インドの南に住んでいます。 しずかです。 町の名前、あ～むずかしいですね。ビッグサライ、ビッグサライ。 しずか（な）町です。 あ～！浜松はとっても静かです。インドのひとと？おいほどです。笑（？）日本、日本、日本、あ～インドでとつてもしずかです。 あ～、お仕事、私の、あ～じむさ（事務所？）で働きます。

判定:C3
氏名:B(インド)

お母さんは？ 妹さんは何歳ですか。 もうひとりいますね。 おにいさんは？ インドの家族とときどき電話したりメールしたりしますか。 きのうは何時ごろ電話をしましたか。 2時間？ 何を話しましたか。 ご家族はみんな元気でしたか。	あ、おかあさん、主婦です。 あ、妹さんはにじゅうさん、にじゅうさん、23歳です。 にじゅういちさいです。 あ～、にじゅう、にじゅうろくさい、あ～ごめんね、28歳です。 毎日電話します。 きのう、2時間電話しました。 毎日2時間、3時間…。 いろいろに話します。 はい、元気です。
ご主人はどんな人ですか。 Bさんとご主人は仲がいいですか。 毎日いっしょにごはんを食べますか。 ご主人はBさんの料理が好きですか。 ご主人が休みの時、どこに遊びに行きますか。 横浜？すごいですね。横浜に行きますか。 浜松でどこか楽しいところに行きましたか。何をしますか。 H I C Eで勉強しますか。土曜日の何時ですか。 Bさんは一週間に何回日本語を勉強しますか。 H I C Eの日本語クラスはどうですか。 先生の名前は？ どんな先生ですか。	優しいです。優しいの人です。親切です。(笑い) あ～あ～height ちょっと大きい、ちょっと長い。 なかが？……あ～とってもいいです。 はい、一緒に食べます。私、作ります、毎日。 はい、とっても大好きです。 (しばし沈黙) 横浜に行きます。 今、行きません。行きたいです。 浜松駅、あん、日曜日と土曜日、駅で、駅に行きます。 土曜日、H I C Eで勉強します。日曜日、買い物します。 7時から8時半まで。 2回。土曜日と水曜日と金曜日、2回。あ、3回。 おもしろいです。 私の先生、F先生です。 先生は親切です。先生、優しいです。
Bさんの小さいときのメモリーありますか。	

判定:C3

氏名:B(インド)

楽しい家族の。 例えば、家族と一緒にどこかに行きましたか。 そのときのこと、ちょっと話してください。 何歳の時、行きましたか。 どうでしたか。	先生、もう一回お願いします。 アグラ市に行きます。アグラ市、いちばんタージマハル有名です。 あなたも行きたいですか。 タージマハルはアグラ市にあります。タージマハルは、…インドの…いちばんかんかち（観光地？）が有名です。 10歳。 ちょっと忘れました。
Bさんご主人はどうやって会いましたか。 小学校ですか。小学校からずっとともだちでしたか。 どうしてご主人と結婚しましたか。 今、ご主人とBさんは幸せですか。 いつインドに帰りますか。 きょうはどうもありがとうございます。	6歳…。主人と学生（のとき？）会います、会いました。 はい、はい。 私の主人は優しいと親切と…から結婚してます。 はい、幸せです。 今年、12月。10か月日本に住んでいます。 ありがとうございました。

判定:C4
氏名:G(インドネシア)

Kです。よろしくお願いします。 お国は？ インドネシアのどちらから？ メダン？ メダンのスマトラ？ メダンのスマトラはどこにありますか。 キサランはメダンのどこにありますか。 キサランはどんなところですか。 知らないです。何ですか。	Gです。よろしくお願いします。 ええと、インドネシアです。 メダンから来ました。 そうですね、メダンのスマトラです。 そうですね。あの昔の、ええと、津波起こったことがありました、ですね。 え〜メダン、スマトラ、島ですね。違います、あの、メダンは大きいまちのスマトラにあります。で、僕はもっと小さいまちに住んでいます。あのキサランといいます。 メダンの・・・ええと、東側と思ってます。 ええと、キサランは、ええ、小さいまちくて、なんで、サヴィット知っていますか。 サヴィットは、あの、木ですね。あのパラム。あれ、パラムで油作ってるものです。油、あの、なんか、サラダ油とか、それ材料作ってます。と、せっけんとか、ええと何と言うかなバターとか、いろいろ作ってます。パラムという。インドネシア語でサヴィットといいます。たくさんありました。
何か有名な食べ物がありますか。 ドドル、日本でも作ることができますか。 どうやって作るんですか。 ないて？	ん〜有名な食べ物は、ドドル、ドドルですね。甘くてやわらかいです。 ええ？難しいですね。材料が日本にあまり無いんですね。あのココナッツ、あのココナッツミルク、一番大切な材料です。ココナッツとかお米、お米ここ大丈夫ですね。でもココナッツとあと、あの砂糖、でも普通の砂糖じゃなくてえ〜、なんだかな、大きい、赤い、赤いと大きい、お砂糖です。普通の砂糖じゃない。 ん〜どうやってかな。ええと、お米はまず、え〜やわらかにして、で、あの、何と言う、おもちみたいですね。おもちみたいして、で、フライパンにないて、で、次のお砂糖、さっきのお砂糖大きいと赤い砂糖入れて、で、10、だいたい4時間くらい、ないて、ないて、何て言うかな、え〜やいて、ないてかな？そうですね、ないて、で、え〜次の材料がココナッツとミルク。だいたいあの、例えば、1リットル、1リッ

大変ですね！ いつ食べるんですか。 知らないです。 去年ラマダンのパーティーしましたか。 日本ではパーティーをしましたか。 そのパーティーの時インドネシアで何をしますか。	トルお米とココナッツも1リットル、1ぶん、1。で、じゅと10時間くらいまでに、あのないてです。それであの最初は色が真っ白いですね。あの黒いまで、それでできあがります。 うん、大変ですね。 あの～ちょっとインドネシアがラバラン、ラバラン知っていますか。 ラバランはえ～とインドネシア、なんかムスリム教が多いです。その時に一年間一回とラマダン参加して、でラマダン終わってその時になんと・・・パティします。そのパティにあの家族が集まってそのドドルを食べます。 去年、しました。でも、僕はインドネシアにいませんでした、ちょっと残念。日本にいました。 あまりしませんでした。 そうですね。本当はそのパーティーは大切なパーティーですね。あの、家族を集まって、で、一年間いっぱいいろいろな間違いがあってですね、あるですね、その時にあの、謝ります。お母さんとか、？？さんとか、お母さんとか。みんなに謝ります。一年間、今まで一年間いろいろなえ～悪いことをしました。本当にごめんなさいといいます。それでみんなそういういいましたですけど。だから次の日よろしくお願いしますといいます。
Gさんのお父さんとお母さんはどんな人ですか。 他には？ Gさんは結婚していますか。 奥さんはどんな人ですか。 インドネシアで奥さんと遊びに行	やさしい人です。 他にはやさしい人ですと何と言うん～明るい人です。いつも笑っている・・・ケーキも上手です。ケーキ、あの、何のケーキを作ること上手です。 結婚しました。 ん～どんな人かな、ま、結婚したばかりですけど、奥さんがやさしいと、でも今、日本に来たばかりですけど、ちょっと何と言うさびしい感じみたいですね。友達なくて話すもあまりしませんでした。人、日本、日本語まだわからないだから。そうですね。 行きましたですね。旅行しましたですね。

判定:C4
氏名:G(インドネシア)

きましたか。 どこが一番良かったですか。 旅行の一日を教えてください。 ボート？ どんな？ そうですか、ありがとうございます。 では今からロールプレイをしたいと思います。	一番良かったは、あの、ダノトバです。ダノトバはなんか、スマトラの一番有名な湖です。 ええと、朝から準備して、で、なんか二人でオートバイ行くなにかべんとしたべんとうとか、あのいろいろなもの、持ってで、え〜何時間かな 2 時間、3 時間あのなんだっけ、え〜ダノトバまでダノトバというさっき湖ですダノトバまでかかります。で、したらすぐ何と言う・・・何と言う日本語かな・・・ええと形は、え、あひるみたい、ボート知ってます？ 自転車けど、でもあの、ええ水のつかってます。湖のボート借りて二人で真ん中まで行きます。それ一番楽しいです。ゆっくりお菓子食べていろいろ話して、景色もきれいに見ます。 あの景色、山、山、山の景色ですね。でも森、森がいろいろなんていう緑、全部緑です。だからなんか心が・・・う〜ん、いい感じになります。
〈ロールプレイ〉 あなたは電車を降りました。でも電車の中にかばんを忘れてしまいました。駅の人に話してください。 どうしましたか？ どんなかばんですか？ 他に何か？黒いかばんですか？ わかりました。ちょっと探しますからここに電話番号を書いてください。 また電話します。	ええ・・・大変ですね！あのすみません、僕のかばん電車の中に忘れちゃったんです。どうしたらいいんですか。 黒くて、あの、中にあの日本語の教科書入ってます。黒いかばんで、あまり大きいじゃない、あの普通のかばんですね。ええと、あの何と・・・ええと、ブルガリと書いてあります。 はい、***** (電話番号読み上げ) よろしくお願いします。

判定:C4
氏名:G(インドネシア)

ありがとうございます。これでロールプレイを終わります。 これでインタビューを終わります。 気をつけて帰ってください。	はいよろしくお願いします。 ありがとうございました。
--	-------------------------------

判定:C5
氏名:R(ペルー)

よろしくお願いします。お名前を教えてください。 Rさんはブラジルの方ですか。 ペルーのどこ出身ですか。	あ、はい。T・Rです。 違います。ペルー人です。 どこ？ああ、ああ、リマです。
リマってどんなところですか。 何歳から何歳までリマに住んでいましたか。 いつ浜松に来たんですか。 その前はどこに住んでいましたか。 初めて日本に来たのはいつですか。	あの一、リマね、あの一、すごくおお（きい？）…。あ、いろいろな、ね、あります。食べ物とか。人は優しい（笑） そこで全部安いと思う。くだものとか野菜とか。あ、生まれたから20歳まで。 浜松？あ〜2006年から。 日本のいろいろな町。東京とか埼玉とか、ん〜栃木、群馬県も。 え〜1997年の…。15年ぐらいね。
長いですね。日本の生活はどうですか。 何がいいですか。 何が違いますか。 さっき学校のルールも…って言いましたね。 なぜですか。	生活は、あ〜、いい。いいと思う。 あ〜、日本ね、ルール、ルールは日本すごいね。車のルールとか、学校もそう。 ペルー全然ちがう。あ〜、例えばね、ごみ、ごみ捨てるときね、ここで別々ね。生ごみとかペットボトルとか。ペルーは全部いっしょにばらばら。 そうですね。みんな自分で歩いてで学校行きますね。ペルーで、例えば、お母さん連れて行きます。 ペルーね、ちょっと危ないからお母さんといっしょに連れていきますと思います。日本はすごく危なくない。
Rさんはこどもさんがいますか。 こどもさんのことを教えてください。 こどもさんの名前は？ Aちゃん（子供の名前）はその幼稚園が好きですか。	はい、います、ひとり。 あ〜こどもね、今幼稚園にいますね。あの一〜4歳。あの一〜自閉症のこどもです。1歳半の検査は何も話さない。それからちょっと心配して、あの一、カウンセリングで行って、でも1歳半まだ早いから、3歳の検査はまだ話さないから、3歳のときはあの一自閉症言ってます。だから今、〇〇幼稚園に、みんな同じ話さない、話すの遅いみんな同じの学校で勉強します。 A（子供の名前）。 あ〜好きと思います。まだ泣かない。バスでおりこう。

Aくん (子供の名前) のことはちょっと心配ですね。 こんどはご家族のことを教えてください。 なぜアルゼンチンですか。 ご主人とどうやって知り合ったんですか。	そうですね。ことばね、日本語で、スペイン語で、どっちな、先生は日本人なので、あ〜私ちょっと心配ね。うちでスペイン語言ってるけど、ちょっとたまに混ぜますね、日本語とスペイン語。 はい。あの〜主人は仕事は、あ〜O (会社の名前?) に働いています。あれはすごく会社、ボーナスもらうと、それはお金はたくさんもらうから、私、仕事しないでいいです (笑)。 <…間…>私の家族はいっぱいいます。お姉さんと妹みんな、私の家族みんな日本にいます。お姉さんのうち、買った。日本にずっと住んでますので。私、アルゼンチンに帰ります。まだわからないけど、たぶん5年になったら帰りますね。 主人はアルゼンチンので。 わからない。あの、日本に会います。浜松。
きょうだいのことを話してください。 アルゼンチンに行ったことがありますか。 何か心配なことがありますか。 (*アルゼンチンのこと)	私は7人兄弟です。一番上はお姉さんはペルーにいて、ホテルを、あの、できました。弟は奥さんはペルー人ので、ペルーに帰った。お姉さんは日本にうち買った。Aさん (姉の名前)。弟は私のとなりのアパートに住んでいます。それで妹は〇〇 (アパート名)に住んでる、S (地名) の近くね。車で5分ぐらい。それでまた妹いる。群馬県に住んでる、お母さんといっしょに。お父さんとお母さん、群馬県に住んでいます。妹は24歳。こどもいる。でも主人のファミリーね、日本にいないからちょっとさみしいので、帰りたいから。日本はひとりお兄さんいますけど、ちょっとおかあさんさびしいから…。もどってほしい。 ないです。どうかな、どうかな、まだ。たぶんペルーと似てると思います。 そうですね。仕事とか、泥棒とか。日本はあの、たとえばね、財布とかかばんとか電車忘れたらまた戻るね。でもペルーとかアルゼンチンとかブラジルとか、全然もどらない。だからちょっと気をつけ…あと、こどもまだ小さいから、学校もそう、まだわからないからちょっと心配。

判定:C5
氏名:R(ペルー)

Rさんは将来、どこでだれとどんな生活がしたいですか。 ご主人はどんな方ですか。 A (子供の名前) 君がことばを話すようになりました。そのことをRさんはどう思いますか。	しょうらい?あ、将来。あ、主人といっしょにどこでもいいけど、ん～(しばし沈黙) いいところいっしょに、どこでもいいけどいっしょにのほうが…。 あ～すごく優しいです。すごく優しい。こども大好き。あの、最初は私のこども浜北に勉強してね、あのちょっと遠いから、あの最初始めるのときに、すごく泣く、さびしい、1週間ぐらい。やめたほうがいいって。でもそれはちょっと、たぶんA(子供の名前)は学校でもっともって話したいから、そのまま勉強してね、でも主人はちょっと心配してね、遠いから、まだ小さいからどうかなあ、ちょっと心配してね。でもA(子供の名前)はすごく、H(施設名)行ってから、ことばざんざん言います。日本語とスペイン語と、色とか、動物とか言ってます。最初トイレは全然出ない、学校ですずっと練習して、それでおうちときに自分で行く…。おしっこまだ自分でまだ行っていないけど、うんちは自分で行ってます。 あ～、すごくうれしい。すごくうれしいね。satisfaction…。
Rさんは休みの日は何をしていますか。 今年の冬、A(子供の名前)君は風邪をひきましたか。 1ヶ月に何回ぐらい病院に行きますか。 きょうはこれからどうしますか。 きょうはインタビューどうもありがとうございました。	あの、お姉さんといっしょに、たまに3人で、姉妹、3姉妹、デパートで買い物とか。今寒いからいつもこども病気いっぱい。病院で行って風邪が多い。こども休みいっぱい。 そう、いっぱい。インフルエンザじゃないけど熱はいっぱい。今月は3回目。幼稚園でお出かけは、こどもジャンパー好きじゃないから、そのまま。こどもは扁桃腺は大きいから、すぐ赤くなる。熱すごい。 この冬のときは3回、5回ぐらい行きます。薬いっぱいもらう、1週間で。でも夏だいじょうぶ。あまり行っていない。3か月で1回ぐらい。 ああ、先ごはんね、終わってから、漢字やります。 いいえ、どういたしまして。

判定:C6
氏名:M(ブラジル)

よろしくお願いします。 私Kと言います。 お国はどちらですか。 ブラジルのどちらですか。 北・・・名前は？ パラ州ってどんなところですか。 すごいですね。他に何か有名なものはありますか。 アマゾンの近くとか、パラの近くとか、行くとしたらどこがお薦めですか。どんなことしたらいいですか。 わかりました。じゃ、ビーチには行ったことがあるんですね。 誰と行きましたか。 その時のこと詳しく教えてください。 ビーチに着いたら何をしますか。 準備する人と遊びに行く人はどうやって決めるんですか。 Mさんはどちらでしたか。 何で準備にしたんですか。	こちらこそよろしくお願いします。 Mです。よろしくお願いします。 ブラジルです。 ブラジルの北ですね。 パラ州っていう・・・ そうですね。けっこう服装には楽です。 有名あとは・・・特にないかな（笑）ええ、あ！有名というとはあ別な州ですけど、アマゾンの隣ということかね。アマゾンてみんな知ってると思うけど、パラは多分知らないと思います。 まず、パラだと・・・浜辺？ビーチ、うん、がきれいなところがありますね。アマゾンだとは、僕も行ったことないですけど、聞くだけでは・・・そうだね・・・なんというかな。う～ん、私は答えできません、アマゾン。 ええ、少ないけど行ったことがあります。広くてね、きれいですね。 う～んその時は家族で。 う～んと、まず、朝うちから出て兄妹とあとうん友だちという感じで。で、まずあの距離的には遠いんですよ。150キロから200キロくらい。うちからね、住んでたところから。で、まあ、う～んとその着く所までは疲れるし、でも着くと楽しいことがあるもんで。いろいろと、で、帰る時は夕方ちゅう感じでまた何時間ぐらいかけて、帰る、帰る時はね。そういうことかね。 まず、準備だね。いろいろと。食事とかの準備とか、あと、その食事の準備と、う～んあと遊ぶ、遊びの準備とか。あとそういうまあ準備する人とまあ直接遊び海にあの浜辺にはい水に入ったりとか、そういう人がいるし、まあいろいろですね。 それ・・・勝手。なんていうかな、やりたい人はやってくれるとか、遊びたい人は行くとか、そういう決まりが無いちゅう感じ。 準備だね（笑）それから遊びと感じ。 う～んとまずやっぱり必要かな。うん。ただ行って
---	---

判定:C6
氏名:M(ブラジル)

その時おいкуつだったんですか。	遊んでじゃなくてまああのためのに、みんな で仲良く、うん、そういう感じ、で、それから遊び に行くとか、それその話はもう何十年前ぐらいの話 かなって（笑）30年以上かな。昔の話（笑） 30年だと、10、45、15 ぐらいかな。30年経ってな いけど20何年くらい。15、6 ぐらいかな。高校の時 かね。
高校の時に一番楽しかった思い出は 何ですか。 なんで？教えてください。 ブラジルの高校は出るのが大変なん ですか。 高校を卒業したら何をしたいとかあ りましたか。 え！？ ブラジルの男の人は軍隊に必ず入ら ないといけないのですか。 何で軍隊に入らなくてはいけないん	高校の時は、一番楽しい時は、卒業した時ですね。 学校からも出ましたと、できまして、卒業できま したとそれが一番嬉しかったです。しんせいのには、 どうしてもどうしても高校ぐらいは出てないといか んちゅう思いがいっぱいでね。 あ、そんなことはないと思いますけど。ただ、あの その高校ぐらいは出たいていう感じで。う～んでも やっぱり点数があってテストあって、あの合格しな いと卒業できないという感じで。 その時は18歳、僕は一年遅れたもんで19かな、18 か19の間の卒業でした。で、まあやりたいことは あったんですけど、向こうは一年間軍隊に行かない と。 あの軍隊と。何だったっけ。三つありますよね、空 と、軍隊が、地とあと海の三つありますよね。で僕 は軍隊選んで一年間9カ月かな、あのそれ19歳の時 高校終わってからあの行きました。その一年間あっ て、まやりたいことは、でちょうどその時に日本に 出稼ぎが始まったところかな。軍隊行ってた通って た時。それでちょうど日本に出稼ぎにチャンスある んですけどってあの他の人から誘われたってことで すかね。え～旅行会社とか？からそうやって軍隊あ がってまず20歳に、20歳で日本でチャンスがあり ました。で、20歳からずっとこっち。 18歳になると必ずていうか、あの何て言うかな、向 こうでいろいろテストみたいやってでもこの人は行 かないといかんていうたら行かないといかんです。 う～んそれはどうでしょうかね。僕にもわからない

判定:C6
氏名:M(ブラジル)

ですか。 行く人と行かない人はどちらが多いんですか。 行く人と行かない人は何が違うんですかね。 例えば何を学びましたか。 良い経験ですね。 日本は自衛隊があるんですけど、絶対入ってくださいというのはなくて、入りたい少しの人が入るんですよ。それとブラジルとどちらがいいんですかね。 でも日本は平和過ぎて生きることの大変さとか、若者が学ぶチャンスが無いと思うんですけど・・・	ですけど、18歳になるととりあえずその登録じゃなくて何て言うかな、まあ一応面接じゃないんですけど、18歳でみんな集まってそれで誰か行くか、行かない人はあの決まる時期があります。 う〜んと、やっぱり、半々くらいですよ。半分行く人と行かない人がいますよね。 まず、家族の中で一人が行ったこともし一回二人目は行かなくても自由ちゅう感じですかね。あとは一人の男の子でしたらそれ自分で決めるちゅう感じ。行きたいか、行きたくない。あとはう〜ん普通でしたらあ、でもそういうこと言えば違うね、一人行っても二人目も行かないといかんですと思います。兄も行ってたんですよ、行ったんですよ。それで兄も行ったところを学んでまあ二回目だったらもうけっこうあの何ていうかいろいろ知りながら行きましたけどね。ちょっと嫌だったけど（笑）けっこう厳しくて。でも勉強になりますね。人生の中に一年間は勉強になりました。 そうだね人間がどのくらいの力があるかって、力ってこういうパワーじゃなくて、あのしんせつ的に。けっこう、うん、いろいろ、う〜ん限界まで。人間ていろいろあの〜我慢ていうのかな、我慢じゃなくてう〜んどこまでどこまであの・・・生きていけるかっていうことはまずわかってきたかなって。まず厳しい、厳しさね。です。 良い経験です。 う〜ん・・・日本の方がいいじゃないですかね。選べるもんですから。ブラジルだとまずさきみたいに高校出たら何やりたいという人が行って、それで、軍隊に行かないといかんが、多分そのやりたいこと一年間やめないといかんし。大学生でも大学あがってから必ず行かないといかん、決めてるんですよ。 そう、そのへんは、そうだよ。人生でどんな厳しいことあるかっていう、あの感覚が無くなるかもしれないですね。でも、でも、選ぶ方がいいじゃないかな。で、選ぶ、あのその何だったっけ自分で決
--	---

判定:C6
氏名:M(ブラジル)

ありがとうございます。ここで変わるんですけど、ロールプレイをします。	めることであれば、自分があの夢をもってできるんじゃないんですか。その道を進むか、進まないかという感じで。そういうことできるけど、あの例えば軍隊に入ってそういう勉強一生懸命やってまあ何だったっけ、あがっていく感じもありますよ。
〈ロールプレイ〉 あなたは会社の上司に食事に誘われました。理由を言って断ってください。 Mさん、今夜空いてますか。 仕事の後に私と一緒に食事に行きませんか。 大丈夫！待ってます。 大丈夫ですよ。一緒に行きましょう。 私話したいです。 そうですか。わかりました、また今度行きましょう。 わかりました。 今後は友だちで誘いますから、友だちで断ってください。 そんなことないですよ（笑）ちょっと友だちバージョンでやってみます。 断ってください（笑）いきますよ。 Mさん、今日空いてる？ 残業あってもいいからさ、今日夜一	今日は・・・まあ今日は正直言ったらちょっと仕事ありますけど。 今日は仕事終わってから、まあ何時に終わるかわからないのでちょっとあの迷惑かけるかもしれないですけど。 え～！でも、そんな遅くなってもいいんですか。 （笑い）でも今日はちょっと・・・疲れて・・・帰ると、またうちから出るのがちょっと大変ですけど。 はい、今度ぜひお願いします。 今さっき上司からこういう答えが出るなんてだめだね～（笑） でも、友だちと行っちゃうかもね（笑） 今日はね、ちょっとう～ん、残業あるかもしれないので、わからないね。 今日ですか？う～ん、また今度ではだめですかね。

判定:C6
氏名:M(ブラジル)

一緒に御飯食べに行かない？ 今日私ちょっと時間あるんだよね～ そっか、残念～。じゃあまた今度行きましょう。 ありがとうございます。これでインタビューを終わります。	そうですか、でも今日はね、仕事終わってからちょっと約束あるんですよ。 ええ、またぜひ今度、ぜひお願いします。
---	--

判定:C7
氏名W(ブラジル)

お名前は？ お国は？ 日本に来てどれぐらいになりますか？ 何歳の時に来られたんですか？ ご両親と来られたんですか？ 幼稚園からずっと？ 日本語は得意ですか？ ご家族は何人ですか？ 何人姉妹ですか。 男兄弟の女・・・。	W・Pです。 ブラジルです。 15年です。 5、6歳のころです。 父と母が1年先にきてその後おじいちゃんと一緒に来ました。 日本の学校に 高校まで行きました。 ポルトガル語より得意かもしれない・・・(笑) 6人で住んでいます。父と母とおじいちゃんと兄弟が二人います。 真ん中です。2歳違いです。3人とも。 兄と弟です。1人です。
趣味は何ですか。 どんなDVDですか？ 一番好きなものは何ですか。 ストーリーを教えてくださいませんか？ それは日本の映画ですか？ アメリカの映画ですか？ 映画館に行きますか？ どんな音楽を聴きますか？	趣味は 特に あんまないです DVD みたり おんがくきいたりですかね～。 映画とか。ドキュメンタリー系とかが好きですね。 ホラーとかはあんまり苦手なんです。 え？私色々見てて あんまりタイトルとか見てない。 どんなストーリー？最近見てないのであんまりでてこない。 日本のあんま見たことないです。 洋画の方が多いですね。 映画館はあんまいかないです。DVDの方が多いです。 洋楽の方が多いですね。特に限定してはないです。 幅広く何でも、広く浅く。
幼稚園から小学校も日本の小学校ですか？ そうですか。今もそのあたりにすんでいますか？ 〇〇中の近所に住んでいるんですか？ 転校することはなかったんですか？ お友達もずっと同じですね。	日本の小学校です。小2までは神奈川にすんでたので〇〇小学校ってとこでそのあとは〇〇小に通ってました。 そのあとは引っ越しましたがけどぜんぜん近くです。 中学も〇〇中で。 いまでも近くに住んでいます。 ずっと近くを引っ越していただけなので。 あんまりともだちは・・・いないですね。

部活は何をしていましたか？ 軟式と硬式は違うんですか？ 軟式のルールはどういうようになるんですか？ ダブルス？シングルス？ 軟式のカウントの仕方は硬式と同じですか？ 高校時代は何をされていたんですか？ それからお仕事をされたんですか？ パンを作ることはできるんですか？	テニス部でした。軟式の方です。 打ち方も違うみたいです。 硬式とあんまかわんないんじゃないんですかね。 中学生はダブルスが多かったです。シングルスも・・・。 あんまりシングルスではなかったですけど、たぶん大会によってですけどすすんでくるとあるのもありますけどだいたいダブルスです。 たぶん一緒だと思います。 部活は情報処理部。パソコンですね。主にパソコンの検定を受けたり、あと、ビジネス関係の検定を向けての勉強をしてました。 今の事務所で働く前まではパン屋さんでアルバイトしてました。遠鉄の下のフォションというパン屋さんです。 パンは作ってないです。販売の方です。
今はどんな仕事をしているんですか？ 大変なお仕事ですね。どんな所が楽しいですか？ どんな話をするんですか？ 小学生？中学生？ 中学生の指導は大変ですよ。 その子たちの問題点は何ですか？	補助員で入ったんですけど、支援教室の指導員の補助員っていうのはいったんですけど通訳の方ですね。あと支援教室とかにいたりして 子どもの勉強を見るんですけど それでどうしても日本語で分からないことがあったりした時にポルトガル語で話したり実際に勉強を見たりっていう。 子どもが好きなので一緒に喋ったりすると楽しい。 結構大人びている子が多いです。生意気な子も多いですけど楽しいですよ。 火水木金とあるんですけど 火水は小学生で 木金は中学生の子たちを。 主に日本語関係を見ているので漢字がおおいですね 数学で文章題どうしてもむずかしくなっちゃうのでそういうのをみたり、やっぱり 漢字ですかね。漢字が読めない子が本当に多いので、あの、問題とかあっても漢字が読めなくて解けないんです。だもんで問題とか読んであげるとすらすら解けるとか 子もいるので。家庭では話さない、日本語を話さない

判定:C7
氏名W(ブラジル)

バイリンガルでよかったと思いますか？ 「得したな」って思うことありますか？ 逆にハンディになったことはありますか？ 今教室に行っていてそういうことに遭っている子どもはいるんですか？ 日本の学校が外国人の子どもを受け入れて一緒に学校生活をさせていく事についていいことだと思いますか？	子ども多いので あとお友達も全員ブラジルの子だったりして、そこではポルトガル語で会話しちゃうので、あんまり勉強しても日本語がそんなに。 はい。日本でずっと生活してきてきたので逆に小さいころから日本の学校に入れてもらえて 日本語をおぼえたので きっとこれから帰る予定もあまりないのでそういう面では逆によかったかなと思う。あんまりないですね。そんなに、特に今までは。 小中で差別されたぐらいであとはそんなに。ちょっとだけ。子どもだから 特有の いじめとかでしたけど そんな 気にする子じゃなかったの。 私達の見ている子たちではそんな感じの子はないですね。たぶん学校に 最近って外国人の子1人 とか ではなくて結構いるので 私の通ってた学校には本当にいなくて 私と兄弟と もう2兄弟ぐらいだったので。 私はいいことだと思います。きっと日本に来て帰る予定がない親とかもいると思うので そういう場合には日本の学校に入れてあげたほうがその子の将来になるかなと思いますけど。逆にブラジルの学校に入れてもらってても、もしブラジルにかえしてもらえてなかったらずっと日本で 生きていくってことなんで、それで日本語が分からなかったら困るので仕事もみつからないですし。実際に知り合いとかでずっとブラジルの学校に通っててもブラジルには帰らなくて日本で暮らしてるけど 日本語だめ できないから 就職がないという子もいるので 逆にいいかな・・・。
〈ロールプレイ〉 上司に食事に誘われる 送別会をやるんだけど、一緒にどうですか？土曜日なんだけど	今週ですか。土曜日は家族と出かける用事があるのですみません。遠くに行っちゃうので。 また是非。

判定:C7
氏名W(ブラジル)

友だちに食事に誘われる 来週の金曜日の夜 みんなで食事に行くんだけど一緒にいかない？ 仕事忙しいの？	ごめん 仕事で早いから無理。また今度誘って。来週かな？ もしかしたら無理かも。Ok だったら連絡するね。
断わるのはむずかしいですか？ はっきりしているんですね。 今日はこれから教室の方へ行かれるんですか？ そうですか、今日はどうも有り難うございました。	そうですね。わたし結構はっきりしているので 無理は無理なので。 よくいわれますね、はっきりしてるって。 今日は行かないです。もういかれました。みんなで。3：10 からなんですけど。今週は授業が早く終わるので小学校は それより早く。 ありがとうございました。

判定:C8
氏名K(ブラジル)

よろしくお願いします。Kと申します。 Kさんはどちらのご出身ですか。 ブラジルのどちらですか。 サンパウロ行ったことないんですけど、どんなところですか。 サンパウロで有名な観光地はあるんですか。 そこはサンパウロの・・・空港の名前は？ その国際空港からセントロまでどうやって行ったらいいですか。 Kさんはセントロに行ったことはありますか。 例えば何をかうんですか。	Kと申します。よろしくお願いします。 ブラジルです。 サンパウロです。 や、もう日系人が多くて、はい、僕も小さい頃から幼稚園とか日本語学校通ってまして。で、ボーイスカウトも。日本のお寺の西本願寺っていうところでボーイスカウト行っていました。そこも日系人の子がたくさんいましたので。 サンパウロね、あの～イピランダ博物館というところとか、え～とサンパウロいろいろありますね。え～と、町中にはそんなに、ま、え～セントロって言ってま、え～サンパウロ市のえ～ちょうど真ん中にあるところ。ま、古い建物があってそこがちょっと有名ですね。 グアリウスです。国際空港です。 一番便利なのはバスでも行けるんですけど、車が一番ですよ。今地下鉄も作られてると思うんですけど、多分地下鉄でも行けるかな？行けると思います。でも空港には車でいきますので、はい。 もう家が近いので、はい。で、セントロの近くにあのリベルダーデっていう場所がありまして、そこにはいろんな日本の食材店があるんですよ。レストランとか。でよくそちら買い物には母親と行っていました。 ま、子どもの頃だったのでお菓子とかね日本の漫画とか。で、日本のえっとビデオ、レンタルビデオさんがありまして、日本の番組のね、アニメとか、そういったビデオテープだったんですけどね。借りに行っていました。
一番覚えているビデオ、アニメは何ですか。 最近、ドラえもん、ドリフ見たこと無いんですけど一番覚えているスト	そうですね。ドラえもんよく見てましたね。で、あのドリフ？8時だよ、けっこう古いものなんですけど、8時だよとかそういったビデオ見てました。 え～と、プラスチックの球ってよく何かドラえもんが何か鉄砲出して、その何、何、何をする球だった

ーリー、エピソードがあったら教えてください。 最近は何を見ますか。 例えば？ 何が一番好きですか。 どうして好きなんですか。 Kさんおうちは、何か変えたいなど あるんですか。 どうやってやったんですか。 詳しく教えてください。	かな、よくプラスチックの球ってそれが印象的で、 ピーすけ？が出てたと思います。ピーすけって あの恐竜ですよね。昔の恐竜。そういったストーリ ーがありました。色々あったんですけど、それが 印象的です。 最近は何、あの子どももいますので、見てます。 え〜とホコタテとか。ビフォーアフターとかいろん な番組見てますよ。 ゆっくり見れるのが日曜日なのでそのビフォーアフ ターという番組が好きですね。 日本の本当に古い家を新しくまああの形を残して新 しく建て直すのが良いと思います。 いや、特に去年自分であの壁紙を変えました。 Youtube を見て。もう壁紙買って、ロールで買って それを自分で Youtube を見てやり方を見て自分でや ってました。 いや、そんなに大したものでは（笑）最近の、ね、 壁紙ってもう糊が付いていますので、そのまま古い 壁紙の上に貼ってもいいし、それを剥がして、剥が すとねちょっと大変です。けっこうね埃とか出てく る、汚れが出るので。で一部屋はもう剥がして貼っ たんですけど、二つの部屋も上にペタッと貼っただ けなので。
趣味はそういうことですか。 何ですか。 サッカーのルールを知らないの で教えてください。 でも、ハットトリックとか聞く んで	いや、違いますよ。 趣味て言うともまあスポーツが好きなのでまあ子ども たちとよくサッカーとかしますね。自分の趣味は前 あったんですけど最近ではあまり無いですね。子ど もという時間が長いので。あまり自分の趣味は時間 は無いので。 サッカーのルール？ルールは簡単ですよ。シンプル で、チームが二つあって分かれて。まあもちろん足 だけ手は使わず、キーパーだけね手を使っていいの で。で、相手のゴールにボールを入れる、まあ簡単 なルールはそれですよ。 あ〜いろいろとありますよね。ハットトリック、オ

判定:C8
氏名K(ブラジル)

すけど・・ オフサイドって何ですか。 なんでディフェンスラインを越えちゃいけないんですか。	フサイドとか。いろいろありますよね。いろいろとあって（笑） オフサイドは例えばちょっといいですか？机の上で。相手選手がえ～と相手チームがあります、こっちに。で、ディフェンスラインがありまして、例えば一人の選手がこのえーとボール無しでディフェンスラインの前にいる場合はオフサイドになるんですよ。だからボールを渡そうとして彼がここにいると、ディフェンスラインの後ろにいと、オフサイド。例えばボールを蹴ってそのディフェンスラインの後ろにいくとそれはオフサイドじゃないですよ。なのでオフサイドはディフェンスラインがあって、ボールを蹴った時に自分一人であればオフサイドなんですよ。 そうですね、まあルールだから（笑）
ありがとうございます（笑）お子さんにはスポーツを？ それはKさんがやらせたのか、子どもたちがやりたかったのか・・ スポーツ、柔道なんですね。学習塾のポルトガル語とかじゃないんですね。 テキストがあって学ぶとかそういうのじゃないですか。 どうして柔道を選んだんですか。 柔道からポルトガル語もそうですけど、何か学べることはありますか。	二人いまして、長男が今中1の子で、下が今小3。で、下の子は今えっとフットサルをしています。で、と柔道。お兄ちゃんは今中学校入ったので剣道部に入ってで、柔道と剣道部です。 いやもともとね、あの柔道はあの柔道クラブってあのブラジル人の先生なんで、えっとブラジル人の子どもがたくさんいるんですよ。で、公立の学校に行ってるので日本語しかあの話さないの、どこかあのポルトガル語を話せるところに行かせたかったの、でその柔道に入れて長年やってます。 ああ違います。柔道です。柔道で会話をポルトガル語で会話をする。 いえいえそんなことないです。 でも、おじいちゃんも柔道ずっとやってまして、兄貴も柔道やってたんですね。自分だけちょっと柔道やってないんですけど。 そうですね。先生からの指導も日本語を使うんですけど、いろいろとポルトガル語で説明してくれる

判定:C8
氏名K(ブラジル)

将来はお子さんはポルトガル語と日本語両方話して欲しい？ Kさんのように意識してバイリンガルにしようって思っている親御さんもありますが、何も子どもの言葉のことを考えずに親御さんもいますよね。そういった方々にはどんな風に考えを伝えていったらいいですか。 でも私たちすぐにブラジルに帰るからと言ってる親御さんはどうですか。 もし、そういった親御さんに講座を開くとしたらどんな講座にしますか。 そのお子さんたちはアイデンティティが揺らいでると思うんですけど、そういった子たちにどんな言葉を掛けたいですか。	ので。ま、なるべく多くポルトガル語を使わせたいので。はい。 そうですね。両方とも使って欲しいです。今もちろんポルトガル語も話せますので、はい。でもえ～公立学校行ってますのでもう家でポルトガル語話さないと日本語だけになってしまいますのでなるべく両方とも使うようにはしてます。 親それぞれ考えがあると思うんですけど一応日本に長くいるのであれば、ま、もちろん日本語を勉強させて、なるべくね多くの言葉を覚えさせた方がいいよとは自分は思うんですよね。なので、ま将来、子どももね、日本に残るのかブラジルに帰るのか、海外行くのかわからないですけど、なるべくね多くの言葉をしゃべれると得をしますと思いますので。 ああよくいますね。でもそのすぐ帰るもうそろそろ帰るっていうのが段々と長くなっていくと子どもも可愛そうなので。でもう帰る帰るっていう家族、まあ何人か知ってますので帰らずにいると言葉ももう成人になって大人になって日本語を話せないってなると日本にいても仕事はえーと難しいしね。言葉ができないと。その点は両方ねどうせ日本にいるのでまあ両方とも勉強してもらいたいんですよね。 親御さんですか？親にはもう、そうですね、あ～多分親もいろいろと経験しているので、勉強、日本語を勉強すると、こういったいいことがありますよ、マイナスになることはないので、プラスだけなのでなるべくね。ま、日本語を教えていろいろと経験してもらいたいんですよね。 そうですね、アイデンティティというと、僕の例なんですけど、息子は日本語が得意ですよ二人とも。だから日本人だと思ってるんですよ二人は。日本に住んでいて長く日本にいますので将来も多分日本に残りたいという気持ちがあるのでえ～本人たちは日本人だと思っている。でも日本人ではないんですよ。ブラジル人？下の子は日本で生まれたんですけど、まあえーとブラジル人なのでだから、親が
---	--

判定:C8
氏名K(ブラジル)

アイデンティティを支えるものって何ですかね。 わかりました。とても勉強になりました。	おじいちゃんがね日本人で、お父さんがブラジル人。であなたたちも一応日本で生まれたんですけどブラジル人なので、そこを理解させるのはちょっと難しいんですけど、はい。ま、両方ね、ブラジルと日本のいいところを学んで自分達は日本人でもありブラジル人でもあり、そのいいところを見て、あの成長していつてもらいたいですよね。 アイデンティティ。まあね、両国の文化を教えることが大切だと思いますよね。アイデンティティっていつても、僕はブラジル人だからこう、日本人だからこう、でなく、まあ多文化っていうか、よくブラジルも知ってるし、日本も知ってる。だから両国のいいところを学んで自分のアイデンティティを作る。ブラジル人になれとか、日本人になれとかでなく、国際人間ていうんですか？になってくれて僕はそう思います。だから自分ではブラジル人だからブラジル人の旗をブラジル人だよて見せるのではなく、日本人だよではなく、両方いいところを学んで教えていけばいいと思います。
〈ロールプレイ〉 それではがらっと変わらしてロールプレイをしたいんですけどもちょっとこれを読んで頂いてもいいですか。 あなたは会社の上司に食事に誘われました。理由を言って断ってください。 私、〇先生の役をやります。考えて断ってください。今からやりますね。すみません、Kさん、今日の夜、時間ありますか。 なんで？	や、今日はちょっと用事がありまして。 ちょっと子どもさんがちょっとあの柔道に行きます

判定:C8
氏名K(ブラジル)

じゃ明日夜時間ある？食事に行きたいんだけどなあ。 わかりました。じゃ来週は？ わかりました。ありがとうございます。それでは、友だちに変えたいと思います。私、Mさんの役をやります。 Kさん、明日時間ある？ そっか～じゃちょっと来週は？ 食事に行きたいな～て思ったんだけど。 わかった、また誘うね。ありがとう。 はい、ありがとうございました。ちょうど時間になりましたので、これでインタビューを終わります。	のでその送り迎えがありますので、はい。 あ～すみません今週はちょっと忙しくて。はい。 ははは（笑）ま、時間を見て、また、はい、お伝えしますので。よろしくお願いします。 や、明日無いよ。 来週もね、いろいろとやってて、あまり時間が無いから。う～ん、どうして？ あ～そうなんだ。う～んちょっと忙しいので、来週になればちょっとわかるのでまた誘ってくれる？
--	--